

60 分でわかる旧約聖書（21） 「伝道者の書」

1. はじめに

(1) 伝道者の書は、聖書の中では異質な書である。

①無神論者が好んで引用する書である。

②ボルテール（18 世紀のフランスの思想家、啓蒙主義者）がその好例である。

＊合理主義と科学的思考

＊彼の思想は、フランス革命に大きな影響を与えた。

③カルト集団も、この書から引用することを好む。

④この書の目的と文脈を無視してそこから聖句を引用すると、大きな過ちを犯すことになる。

(2) 書名

①「エルサレムでの王、ダビデの子、伝道者のことば」（1 節）。

②これが、この書のタイトルである。

③「伝道者の書」（新改訳）（口語訳）

④「コヘレトの言葉」（新共同訳）

＊伝道者は、ヘブル語で「コヘレト」である。

＊その意味は、「集める者」、「集会を召集する者」などである。

＊そこから、講演者、教師、伝道者などの言葉が派生してくる。

⑤「伝道者の書」や「コヘレトの言葉」よりは、「哲学者の言葉」の方が内容を的確に言い表している。

⑥この書は、神を抜きにした人生探究の書である。

(3) 著者

①著者は、「エルサレムでの王」、「ダビデの子」である。

②該当者は、ソロモンしかいない。ダビデの子孫の中で、エルサレムからイスラエル全土を統治したのはソロモンだけである。

③近年、ソロモンが著作であることを否定する学者も出ているが、伝統的なソロモン著作説を否定するには、証拠不十分である。

⑤この書は、神を抜きにして人生の充足を求めたソロモンの自伝である。

(4) 執筆の目的

①人間の知恵だけで人生の充足を求めることの愚かさを教えるため。

②後世の者たちが、ソロモンの実験を繰り返すことのないようにするため。

伝道者の書から人生を学ぶ。

I. 伝道者の書のアウトライン

1. 人生の問題 (1 : 1~3)

Ecc 1:1 エルサレムでの王、ダビデの子、伝道者のことば。

Ecc 1:2 空の空。伝道者は言う。／空の空。すべては空。

Ecc 1:3 日の下で、どんなに労苦しても、／それが人に何の益になろう。

(1) ソロモンは、人生の問題を提示し、そこから実験を開始する。

①人生はさまざまな苦難を宿し、すばやく過ぎ去って行く。

②その最後は死である。

③死が人生のゴールであるなら、生きている意味や目的はどこにあるのか。

④神を認めないなら、私たちの人生は「空の空」である。

2. ソロモンの実験 (1 : 4~12 : 12)

(1) 科学 (1 : 4~11)

(2) 知恵と哲学 (1 : 12~18)

(3) 快楽 (2 : 1~11)

(4) 物質主義 (2 : 12~26)

(5) 運命論 (3 : 1~15)

(6) 利己主義 (3 : 16~4 : 16)

(7) 宗教 (5 : 1~8)

(8) 富 (5 : 9~6 : 12)

(9) 道徳規範 (7 : 1~12 : 12)

3. 実験の結果 (12 : 13~14)

II. 伝道者の書の観察 (7つの質問)

1. 箴言と伝道者の書の違いは、何か。

2. 伝道者の書の内容は、どのようにして生まれたのか。

3. 伝道者の書のキーワードは、何か。

4. 伝道者の書に出て来る結論は、信用できるか。

5. 伝道者の書は、「神のことば」の一部なのか。

6. ソロモンの信仰は、どういう状態にあったのか。

7. ソロモンの実験の結果は、どうであったのか。

1. 箴言と伝道者の書の違いは、何か。

- (1) 箴言には、ソロモンの知恵が表現されている。
- (2) 伝道者の書には、ソロモンの愚かさが表現されている。
 - ① 神から離れていた間のソロモンの自伝である。
 - ② それゆえ、この書のタイトルは「哲学者の言葉」とした方が分かりやすい。

2. 伝道者の書の内容は、どのようにして生まれたのか。

- (1) 神を抜きにして人生の意味を探究すると、この書の結論にたどりつく。
- (2) この書の中には、聖書の他の箇所との教えと矛盾する内容が多く出て来る。
- (3) 今も、神を抜きにして人生の充足を求める人がたくさんいるが、それは空しい試みである。
- (4) 伝道者の書の内容は、人間の哲学的営みである。
 - ① ソロモンほど知恵のある人はいなかった。
 - ② ソロモンほど富のある人もいなかった。
 - ③ ソロモンはあらゆるものを用いて実験したが、結果は空しかった。
- (4) ヨブは義人であったが、神は彼が罪人であることを示した。
- (5) ソロモンは知者であったが、神は彼が愚か者であることを示した。

3. 伝道者の書のキーワードは、何か。

- (1) 「空」 (vanity) がキーワードである。
 - ① 37 回も出て来る。
 - ② 『般若心経』にある「色即是空」という仏教の教義とは異なる。
 - * この世のすべてのものは、永劫不変の実体ではないという教え。
 - ③ 伝道者の書の「空」は、神なき人生の空しさを表現したものである。
- (2) 「日の下で」 (under the sun) がキーフレーズである。
 - ① 29 回も出て来る。
 - ② ソロモンは、死後の命や世界のことを考慮していない。
 - ③ 伝道者の書の内容は、地上の生活と人間の体験に限定されている。
 - ④ 「私は心の中で言った」という表現が繰り返される。
- (3) 人は、全世界を手に入れても、あらゆる快楽を体験しでも、満足を得ることはできない。
- (4) キリスト抜きには、真の充足はない。

4. 伝道者の書に出て来る結論は、信用できるか。

- (1) 聖書の教えと矛盾する結論

Ecc 2:24 人には、食べたり飲んだりし、自分の労苦に満足を見いだすよりほかに、何も良いことがない。これもまた、神の御手によることがわかった。

Ecc 3:19 人の子の結末と獣の結末とは同じ結末だ。これも死ねば、あれも死ぬ。両方とも同じ息を持っている。人は何も獣にまさっていない。すべてはむなしいからだ。

Ecc 9:5 生きている者は自分が死ぬことを知っているが、死んだ者は何も知らない。彼らにはもはや何の報いもなく、彼らの呼び名も忘れられる。

(2) 半分真理で半分嘘の結論

Ecc 1:4 一つの時代は去り、次の時代が来る。／しかし地はいつまでも変わらない。

2Pe 3:10 しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。

(3) 真理と調和する結論

Ecc 12:1 あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。

5. 伝道者の書は、「神のことば」の一部なのか。

(1) 伝道者の書もまた靈感を受けていると言える。

(2) 聖書の中には、サタンの言葉も含まれている。

Gen 3:4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。

Gen 3:5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

①聖書は、サタンの嘘を肯定しているわけではない。

②これを聖書に含めることで、サタンが嘘つきであることを示している。

(3) 伝道者の書は、人間の哲学的営みの空しさを伝えようとしている。

6. ソロモンの信仰は、どういう状態にあったのか。

(1) ソロモンは、人生の探究を行っていた間も神を信じていた。

①神という言葉が 49 回出て来る。

②すべて「エロヒム」である。

③これは、「創造主」という意味で使っている言葉である。

(2) しかし、その間の彼の信仰は、救いに至る信仰ではなかった。

①【主】(ヤハウェ)という言葉が 1 度も出てこない。

②【主】とは、契約の御名である。

(3) 創造主の存在は、一般啓示から認識できるものである。

(4) 【主】の存在は、特別啓示からしか認識できない。

7. ソロモンの実験の結果は、どうであったのか。

Ecc 12:13 結局のところ、もうすべてが聞かされていることだ。神を恐れよ。神の命令を守れ。これが人間にとってすべてである。

Ecc 12:14 神は、善であれ悪であれ、すべての隠れたことについて、すべてのわざをさばかれるからだ。

(1) 「神を恐れよ。神の命令を守れ」というのが、コヘレトの結論である。

(2) 神を恐れ、神の命令を守る動機は、神の裁きへの恐れである。

①現世における裁きへの恐れ

②死後の裁きへの恐れ

＊ソロモンが死後の世界のことを考えていたかどうかは不明である。

＊少なくとも私たちは、聖書の啓示を通してその認識を持っている。

(3) 以上の助言は、知者が理性的に思索した結果出て来たもので、神の啓示に対する信仰的な応答だということではない。

(4) イエス・キリストを信じる私たちは、恐れから解放されている。

1Jn 4:18 愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。

60 分でわかる旧約聖書 (22) 「雅歌」

1. はじめに

(1) 雅歌は、聖書の中で最も解釈が難しい書である。

①その証拠に、歴史上、雅歌は種々の方法で解釈されてきた。

②と同時に、官能的であるとして、雅歌を遠ざけて来た人たちもいた。

(2) 書名

①「ソロモンの雅歌」 (The Song of Solomon)

②ヘブル語では、「歌の歌、ソロモンによる」

* The Song of Songs, Which is by Solomon's

* 「歌の歌」は、最上級を指す言葉である。

* 「雅歌」の意味は、「歌の中の最高の歌」である。

③「彼は三千の箴言を語り、彼の歌は一千五首もあった」 (1 列 4 : 32)

* それらの歌の中の最高峰が、雅歌である。

(3) 著者はソロモンである。

①ソロモンの名が 7 ケ所に登場する。

* 1 : 1 「ソロモンの雅歌」

* 1 : 5、3 : 7、9、11、8 : 11、12

②自然界への言及は、ソロモンの興味と合致する。

「彼はレバノンの杉の木から、石垣に生えるヒソプに至るまでの草木について語り、獣や鳥やはうものや魚についても語った」 (1 列 4 : 33)。

③王が所有する馬や戦車への言及がある。

④地理的状況が、統一王国時代のものである。

⑤ユダヤの伝承

* ソロモンは、青年時代に雅歌を書いた。

* 壮年期に箴言を書いた。

* この世の生活に飽きた頃に、伝道者の書を書いた。

(4) 執筆の目的

①どの解釈法を採用するかによって、結論が異なる。

②字義通りの解釈を採用すると、「結婚生活への賛歌」となる。

2. アウトライン

(1) 5 つの代表的な解釈法

- ① 寓喩 (比喩的解釈) 的解釈
- ② 型としての解釈
- ③ 戯曲 (2 名ないし 3 名の主役)
- ④ 歌集 (関連性のない愛の賛歌が集められたもの)
- ⑤ 字義通りの解釈

(2) 字義通りの解釈に基づくアウトライン

- ① 牧歌① : 結婚式当日 (1 : 2~2 : 7)
- ② 牧歌② : 婚約時代 (2 : 8~3 : 5)
- ③ 牧歌③ : 結婚式の描写 (3 : 6~5 : 1)
- ④ 牧歌④ : 性的関係のずれ (5 : 2~6 : 9)
- ⑤ 牧歌⑤ : ガリラヤへの帰省 (6 : 10~8 : 14)

雅歌の意味とその現代的適用について学ぶ。

I. 5 つの代表的な解釈法

1. 寓喩 (比喩的解釈) 的解釈

- (1) これは、2 人の恋人に関する実話でなく、あることを教えるための寓話。
- (2) 何を教えているかについても意見の相違が見られる。
 - ① ほとんどのユダヤ人学者と一部の福音派の学者は、これをイスラエルに対する神の愛の物語だと解釈する。
 - ② 多くの福音派の学者は、これを教会に対するキリストの愛の物語だと解釈する。
- (3) この解釈の問題点は、主観に基づく自己解釈がどこまでも広がることである。
 - ① 文字の背後に隠された意味があると考ええる。
 - ② 雅歌 1 : 5 (オリゲネスの解釈)

Son 1:5 エルサレムの娘たち。／私はケダルの天幕のように、／ソロモンの幕のように、
／黒いけれども美しい。

＊教会は罪で汚れている。

＊しかし、回心後は霊的に美しくなった。

2. 型としての解釈

- (1) この解釈では、雅歌の物語は事実であるとされる。
 - ① 歴史的実事が、あることを指し示す型になっている。
 - ② 寓話的解釈では、物語は実話ではない。
- (2) あることがなんであるかに関しては、やはり、2 つの立場がある。

- ①イスラエルに対する神の愛
- ②教会に対するキリストの愛
- (3) この解釈法の問題点は、歴史的事実の内容がほぼ無視されることである。

3. 戯曲 (2 名ないし 3 名の主役)

- (1) 雅歌の内容を「幕」や「場」に区切ることは不可能である。
- (2) 当時のイスラエルには、戯曲という文学類型は存在していなかった。

4. 歌集 (関連性のない愛の賛歌が集められたもの)

- (1) 雅歌の物語には、追跡可能な筋がある。
 - ①婚約時代 (1～3 章)
 - ②結婚式 (3～5 章)
 - ③結婚生活 (5～8 章)

5. 字義通りの解釈

- (1) 雅歌の物語は、実際に存在した 2 人の恋人の愛の物語だとされる。
- (2) 神が用意してくださった理想的な男女の愛の関係について詠った歌である。
- (3) 物語の流れ
 - ①ソロモンは、下ガリラヤにぶどう畑を所有していた。
 - ②ある日そこを訪問し、ぶどう畑で働いている女に出会って恋に陥った。
 - *彼女の家族構成は、母親、妹、少なくとも 2 人以上の兄。
 - *父親は登場しない。恐らく亡くなっていたのであろう。
 - ③彼女は、兄たちから強制されて、ぶどう畑で働いていた。
 - *そのため、顔は日焼けしていた。
 - ④ソロモンは彼女と交際を始め、ついに結婚を申し込んだ。
 - *彼女はそれを受け入れた。
 - ⑤ソロモンは行列を仕立て、彼女を花嫁としてエルサレムに上らせる。
 - ⑥宮廷で結婚式と婚宴が行われ、ふたりは初夜を迎える。
 - ⑦その後、シュラムの女は肉体関係における困難を覚える。
 - *彼女はソロモンを拒否し、王は彼女から離れて行く。
 - ⑧彼女は自分が王を拒否したことを悔い、王を探してよい関係を回復する。
 - ⑨宮廷での生活がしばらく続いた後、シュラムの女は帰省することを願う。
 - ⑩ソロモンは同意し、ふたりで彼女の実家を訪問する。
 - *そこでふたりは再度愛を誓い合う。
 - ⑪締めくくりは、彼女の故郷で体験した夫婦関係の喜びを歌った歌である。
 - ⑫これが、雅歌を字義通りに解釈した結果として見えてくる流れである。

⑬ちなみに、「シュラムの女」(Shulamit)と訳された言葉は、ヘブル語では「ソロモン」の女性形の「シュラミット」である。「パウロ」の女性形を「ポーリン」と言うのと同じ。「ソロモン」と「シュラミット」で、「Mr. and Mrs. Solomon」という意味になる。

II. 字義通りの解釈に基づくアウトライン

- * 雅歌は、5 つの牧歌から構成されている。
- * それらの牧歌は、時間順に並んでいるわけではない。
- * それが、この書の解釈を困難にしている理由である。
- * 5 つの牧歌を吟味すると、結果的に、ある物語の流れが見えてくる。

1. 牧歌①：結婚式当日 (1:2~2:7)

(1) 婚宴に備えるシュラムの女

①彼女は、エルサレムの娘たち(クアイア)に向かって新郎への愛を語る。

(2) 婚宴の席で

- ①婚宴の席で、ソロモンと花嫁が互いの美しさをたたえ合っている。
- ②ソロモンは花嫁を雌馬の麗しさにたとえる。
- ③花嫁はソロモンを最高の香料(ナルド)にたとえる。
 - * 花嫁が身に着けているナルドが香りを放つ。
 - * ナルドは性的情熱をかきたてるために用いられることがある。
- ④相手のよい点を言葉に表すことは、大変重要である。

(3) 奥の間にて

- ①ふたりは、初夜を過ごすために寝室に入る。
- ②その様子が、官能的な言葉で描写される。
- ③この体験から、花嫁はこう語る。

Son 2:7 エルサレムの娘たち。／私は、かもしかや野の雌鹿をさして、／あなたがたに誓っていただきます。／揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。／愛が目ざめたいと思うときまでは。

* 性的情熱は、それが完全に満たされる状況が整わない限り、不用意に掻き立てるものではない。

2. 牧歌②：婚約時代 (2:8~3:5)

(1) 愛する人の訪問

- ①ある春の日、ソロモンがガリラヤに住む彼女の家を訪ねて来た。
- ②シュラムの女は家の中にいる。
- ③ソロモンは、シュラムの女に語りかける。
*冬は過ぎ去り春が来た、それゆえ、眠りから覚めて外に出ておいでと。
- ④ふたりは散歩に出かける。
*長い冬の間に、彼らの愛が冷えなかったことが証明された。
- ⑤散歩の途中で、女はぶどう畑が狐によって荒らされているのを発見する。
*ふたりの愛を壊す狐 (障害) がいるなら、それを取り除く必要がある。
- ⑥婚約期間中に問題が見えたなら、すぐにそれに対処する必要がある。

(2) 冬の間に見た悪夢

- ①ソロモンが仕事に出かけて後、彼女は冬の間に見た夢について考える。
- ②夢の中で、ソロモンを探す、なかなか見つけることができなかった。
- ③ソロモンが彼女を見捨ててどこかに行ってしまったという悪夢である。
- ④夜回りが去るとすぐに、彼女は愛する人を見つける。
- ⑤彼女はその人をしっかりとつかまえ、自分の母の家に連れ帰る。
- ⑥婚約時代には、婚前交渉の危険性がある。
- ⑦「揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。愛が目ざめたいと思うときまでは」という言葉は、その危険性に関する警告である。
- ⑧現代の性道徳と聖書が教える基準とは、大きくかけ離れている。

3. 牧歌③：結婚式の描写 (3:6~5:1)

(1) 結婚式場への行進

- ①これは、第 1 の牧歌と第 2 の牧歌の間に入るものである。
- ②ソロモンはシュラムの女をエルサレムに迎えるために、行列をガリラヤに派遣した。
- ③彼女は、行列の中心にいて、エリコからエルサレムに上りつつある。
- ④花嫁は豪華な香水を身に着け、香料をたきながら近づいて来る。
- ⑤ソロモンは彼女をすでに女王として扱っている。

(2) 結婚の夜

- ①ソロモンは、花嫁の美しさをたたえる。
- ②彼の言葉は、一般的なものから具体的な描写に移行していく。
*目 (1 節)、歯 (2 節)、くちびる、口、こめかみ (3 節)、首 (4 節)、乳房 (5 節) などが、次々と称えられていく。
*これは 7 重の美の表現である。

- ③次にソロモンは、花嫁の内面の美について語る。
- ④彼はシュラムの女を「閉じられた庭」にたとえている（11 節）。
 - *その庭に入ることができるのは、正当な所有者だけである。
 - *彼女は、封じられた泉（処女）である（12 節）。
- ⑤彼女は、ソロモンを受け入れる準備が出来たことを伝える。
- ⑥翌朝、ソロモンは彼女との関係に満足したことを伝える。
- ⑦この箇所締めくくりは、エルサレムの娘たちがふたりの肉体的関係を祝福して歌う歌である。

4. 牧歌④：性的関係のずれ（5：2～6：9）

（1）愛の拒否

- ①ふたりは、結婚生活の調和に向かって努力を始める。
- ②この箇所は、結婚関係においては双方の努力と歩み寄りが必要であることを教えている。
- ③言葉に出して妻をほめることが重要である。
- ④夫にとって気に入らないことが起こったとしても、結婚の時に示した愛をもって妻を受け入れる必要がある。

5. 牧歌⑤：ガリラヤへの帰省（6：10～8：14）

（1）踊り

- ①シュラムの女が踊る場面は、「性的関係の調整」という文脈の中で解釈すべきである。

（2）シュラムの女の帰省の願い

- ①ふたりで故郷を訪問しようという提案がなされる。
- ②ガリラヤの野では、木々が芽を出し、花が咲くのを見ることができる。
- ③自然の中で夫婦の契りを交わすことができる。都会では不可能なこと。
- ④女は、自分の生家にソロモンを連れて行き、そこで新しい形の夫婦愛を見せることを願っている。
- ⑤この箇所は、シュラムの女がエルサレムの女たちに誓いを立てさせるところで終わる。「エルサレムの娘たち。私はあなたがたに誓っていただきます。揺り起こしたり、かき立てたりしないでください。愛が目ざめたいと思うときまでは」（8：4）
- ⑥欲求が十分に満たされる状況が訪れるまでは、軽々しく欲望をかきたてるべきではない（この歌が出てくるのは、これで3回目）。
- ⑦ここでの教訓は、女性が夫婦関係を積極的に導いているということである。

＊これは決して悪いことではない。

(3) 故郷への旅

- ①ソロモンが初めてシュラムの女を見た場所、出会いの場所に戻る。
- ②シュラムの女は、愛の契約の更新を願っている。
- ③愛の契約は、愛が最初に生れた場所で更新された。

(4) シュラムの女の実家にて

- ①彼女には兄が少なくとも 2 人、妹が少なくとも 1 人いる。
- ②シュラムの女は、彼らがどのようにして自分を守ってくれたかを思い出す。
- ③処女の状態でソロモンと結婚できたのは、彼らの守りがあったから。
- ④ここでシュラムの女は、兄たちに褒賞を与えて欲しいとソロモンに願う。
- ⑤ソロモンはそれに同意する。
- ⑥彼女は歌を歌いながら、ソロモンを外に導き出す。
- ⑦ふたりは、どこかへ消え去る。自然の中で夫婦の契りを交わすためである。
- ⑧それこそ、彼らがガリラヤを訪問した目的であった。
- ⑨これをもって、雅歌の物語は終了する。

結論：結婚生活のためのガイドライン

1. 相手のために時間を費やす。
 - (1) 真に相手のことを知るために、時間を取る。
 - (2) 相手の必要に対して関心を払う。
2. 相手を励まし、ほめる。
 - (1) 批判は信頼関係を破壊する。
 - (2) とともに喜び、ともに悲しむ。
3. 互いの存在を楽しむ。
 - (1) 結婚を神からの贈り物として喜ぶ。
 - (2) 独創的な方法を用いて、互いの存在を楽しむ。
4. 相手に対する愛と献身を再確認する。
 - (1) 問題解決のために努力する。
 - (2) 離婚を解決策とは考えない。
 - (3) 神は、私たちの結婚関係を祝福しようとしておられる。

60 分でわかる旧約聖書（23） 「イザヤ書」

1. はじめに

(1) 預言者たちの分類

- ①旧約聖書では、預言者の時代はサムエルとともに始まった（前 1100 年頃）。
 - *祭司たちが墮落した時代に、神は預言者を起こされた。
- ②預言書を書いた預言者たち（the writing prophets）は、王国が南北に分裂して以降に登場した（前 930 年頃）。
- ③バビロン捕囚から帰還して以降、旧約聖書の歴史の終わりまで彼らの働きは続いた（前 400 年頃）。

(2) 預言者たちの働き

- ①同世代の人たちに、神のことばを伝えた。
 - *彼らは「預言者」たちである。
 - *彼らは、自分が語っていることをよく理解していた。
 - *「【主】は言われる」、「【主】のことばがあった」などが使われる。
- ②将来起こることを預言した。
 - *彼らは「予言者」たちである。
 - *従順か不従順かによって、結果が異なってくるというメッセージ。
 - *必ずしも自分が語っている内容を理解していたわけではない。
 - *特に、メシア預言においてそれが言える。
 - *なぜメシアは、受難のしもべであると同時に、栄光の王なのか。
 - *これは、初臨と再臨の区別がついていないことからくる戸惑いである。

(3) 預言書の分類

- ①大預言書（the Major Prophets）
 - *預言の分量が多い。
 - *イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書
- ②小預言書（the Minor Prophets）
 - *預言の分量が少ない。
 - *ホセア書からマラキ書までの 12 書。

(4) 働きの時期による分類

- ①捕囚期前（12）
- ②捕囚期（2）
 - *エゼキエル書

*ダニエル書

③捕囚期後 (3)

*ハガイ書

*ゼカリヤ書

*マラキ書

(5) 預言者たちが語ったメッセージの要約

- ①神の主権と聖なるご性質
- ②契約の民イスラエルの不従順の罪
- ③悔い改めへの招き
- ④迫り来る神の裁きと捕囚
- ⑤イスラエルの民を攻撃する周辺国への裁き
- ⑥捕囚からのレムナントの帰還
- ⑦メシアの来臨とイスラエルの民によるメシア拒否
- ⑧大患難時代とイスラエルの民の回復
- ⑨王としてのメシアの来臨
- ⑩メシア的王国の樹立

(6) 預言者たちが語らなかったこと

- ①教会の預言
- ②新天新地の預言

2. アウトライン

- (1) イザヤ書の著者
- (2) イザヤ書の統一性
- (3) イザヤ書の執筆目的
- (4) 新約聖書の中のイザヤ書

イザヤ書の内容について学ぶ。

I. 著者

1. イザ 1 : 1

Isa 1:1 アモツの子イザヤの幻。これは彼が、ユダとエルサレムについて、ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代に見たものである。

- (1) 著者は、アモツの子イザヤである。
 - ①南王国ユダの 4 代の王に仕えた。

- ②ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤ
- ③イザヤという名前は、「ヤハウエは救い」という意味である。

(2) イザヤの素性

- ①彼はエルサレムに住み、宮廷に出入りすることができた。
- ②結婚し、2 人の息子が与えられていた。
 - *シェアル・ヤシュブ (7:3)
 - *マヘル・シャルル・ハシュ・バズ (8:3)
- ③召命の記事 (6:1~13) から祭司だったと考える者もいるが、証拠はない。
- ④奉仕期間は、およそ 60 年に及ぶ。

II. 統一性

1. イザヤ書を 2 つに区分する考え方がある。

(1) これは、自由主義神学者たちの立場である。

- ①第 1 イザヤ (1~39 章)
- ②第 2 イザヤ (40~66 章)
 - *それが誰であるかは明示しない。
 - *旧約聖書 39 卷、新約聖書 27 卷と数字の上では一致している。
 - *このことに意味付けする必要はない。
- ③これは、18 世紀になって提案された新しい説である。

(2) 区分する理由

- ①超自然的要素を認めない姿勢
 - *将来の出来事の預言は、それが起こってから書かれたと主張する。
 - *しかし、イスラエルの神が将来の出来事を預言できないなら、偶像の神々と同じレベルになるではないか。
- ②文学形式が異なっている。
 - *しかし、テーマが異なると、異なった用語や形式を採用するものである。

2. 私たちの立場

(1) 歴史的証拠

- ①ユダヤ人の伝承では、イザヤ書はひとつの書である。
- ②死海写本の中のイザヤ書は、ひとつの書である (前 2 世紀)
- ③クリスチャンの伝統でも、18 世紀になるまでは、イザヤ書はひとつの書と考えられてきた。

(2) 新約聖書の記録

- ①新約聖書による旧約聖書の引用は、詩篇が最高であり、次がイザヤ書である。
- ②主要なイザヤ書からの引用には、イザヤというタイトルがつけられている。
- ③イエス・キリストは、イザヤがイザヤ書全体の著者であることを認めている。
*ルカ 4 : 17~19 (預言者イザヤの書が手渡された)

(3) 自由主義神学者たちは、超自然的な要素を信じることができないのである。

Ⅲ. 執筆の目的

- 1. 契約の民に、彼らはヤハウェと特別な関係にあることを思い出させた。
 - (1) ヤハウェとは、契約の神の御名である。
 - ①イスラエルの民には、契約の民としての特権と責務がある。
- 2. イザヤは、アブラハム契約を理解していた。
 - (1) この点は、他の預言者たちも同じである。
 - ①アブラハム契約の理解は、預言者として必須の知識である。
 - (2) イスラエルの民の特権
 - ①カナンの地を所有するという約束
 - ②子孫が増えるという約束
 - ③他の民族に対して祝福となるという約束
- 3. イザヤは、シナイ契約も理解していた。
 - (1) 申命記の中に、モーセの律法の内容が要約されている。
 - ①律法に従えば、祝福が来る。
 - ②律法に違反すれば、裁きが来る。
 - *その中には、捕囚も含まれる。
 - ③裁きは、契約関係に基づく「神の叱責」である。
 - (2) イザヤは、その地から追放されても、やがて民が帰還することを知っていた。
 - ①これは、アブラハム契約の効果である。
 - ②モーセが、申命記の中ですでにそのことを預言していた。
- 4. イザヤは、2つの世代に語りかけていた。
 - (1) 同世代のイスラエル人たち
 - ①イザヤは、同世代のイスラエル人たちに悔い改めのメッセージを語った。

- ②シナイ契約に基づけば、背信の民は神の裁きに会う。
- ③イザヤは、南王国ユダが捕囚に引かれて行くことを知っていた。

(2) 将来のイスラエル人たち

- ①捕囚の地にいるであろう人たちに、希望のメッセージを届けた。
- ②神は彼らを約束の地に回復し、平和と繁栄の御国を建設される。
- ③イザ 40～66 章では、「慰め」がキーワードになっている。
 - *罪の贖いというテーマ以上のものが含まれている。
 - *被造世界の回復のメッセージが語られている。

IV. 新約聖書の中のイザヤ書 (イザヤ書の後半部分)

1. バプテスマのヨハネが登場した。イザ 40 : 3

Mat 3:3 この人は預言者イザヤによって、／「荒野で叫ぶ者の声がする。／『主の道を用意し、／主の通られる道をまっすぐにせよ』」／と言われたその人である。

2. 悪霊を追い出し、病気の人をいやされた。イザ 53 : 4

Mat 8:17 これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。「彼が私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負った。」

3. 安息日に片手のなえた人をいやされた。イザ 42 : 1～4

Mat 12:17 これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。

Mat 12:18 「これぞ、わたしの選んだわたしのしもべ、／わたしの心の喜ぶわたしの愛する者。／わたしは彼の上にわたしの霊を置き、／彼は異邦人に公義を宣べる。

Mat 12:19 争うこともなく、叫ぶこともせず、／大路でその声を聞く者もない。

Mat 12:20 彼はいたんだ葦を折ることもなく、／くすぶる燈心を消すこともない、／公義を勝利に導くまでは。

Mat 12:21 異邦人は彼の名に望みをかける。」

4. イエスの公生涯のまとめ。イザ 53 : 1

Joh 12:38 それは、「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか。また主の御腕はだれに現されましたか」と言った預言者イザヤのことばが成就するためであった。

Joh 12:39 彼らが信じるができなかったのは、イザヤがまた次のように言ったからである。

Joh 12:40 「主は彼らの目を盲目にされた。また、彼らの心をかたくなにされた。それは、彼らが目で見ず、心で理解せず、回心せず、そしてわたしが彼らをいやすことのないためである。」

Joh 12:41 イザヤがこう言ったのは、イザヤがイエスの栄光を見たからで、イエスをさして言ったのである。

5. イスラエル人の不信仰と異邦人の救い。イザ 10 : 22、8 : 14、28 : 16

Rom 9:27 また、イスラエルについては、イザヤがこう叫んでいます。／「たといイスラエルの子どもたちの数は、／海べの砂のようであっても、／救われるのは、残された者である。」

Rom 9:28 主は、みことばを完全に、しかも敏速に、／地上に成し遂げられる。」

Rom 9:29 また、イザヤがこう預言したとおりです。／「もし万軍の主が、私たちに／子孫を残されなかったら、／私たちはソドムのようになり、／ゴモラと同じものとされたであろう。」

Rom 9:30 では、どういうことになりますか。義を追い求めなかった異邦人は義を得ました。すなわち、信仰による義です。

Rom 9:31 しかし、イスラエルは、義の律法を追い求めながら、その律法に到達しませんでした。

Rom 9:32 なぜでしょうか。信仰によって追い求めることをしないで、行いによるかのよう

に追い求めたからです。彼らは、つまずきの石につまずいたのです。

6. イスラエル人の不信仰と異邦人の救い。イザ 53 : 1、65 : 1

Rom 10:16 しかし、すべての人が福音に従ったわけではありません。「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか」とイザヤは言っています。

Rom 10:17 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。

Rom 10:18 でも、こう尋ねましょう。「はたして彼らは聞こえなかったのでしょうか。」むろん、そうではありません。／「その声は全地に響き渡り、／そのことばは地の果てまで届いた。」

Rom 10:19 でも、私はこう言いましょう。「はたしてイスラエルは知らなかったのでしょうか。」まず、モーセがこう言っています。／「わたしは、民でない者のことで、／あなたがたのねたみを起こさせ、／無知な国民のことで、あなたがたを怒らせる。」

Rom 10:20 またイザヤは大胆にこう言っています。／「わたしは、わたしを求めない者に見いだされ、／わたしをたずねない者に自分を現した。」

Rom 10:21 またイスラエルについては、こう言っています。／「不従順で反抗する民に対して、／わたしは一日中、手を差し伸べた。」

60 分でわかる旧約聖書 (24) 「エレミヤ書」

1. はじめに

(1) 預言者たちの中でのエレミヤの位置づけ

① 預言書を書いた預言者 (the writing prophet)

* 王国が南北に分裂して以降に登場した (前 930 年頃)。

② 同世代の人たちに、神のことばを伝えた。「預言者」である。

③ 将来起こることを預言した。「予言者」である。

④ エレミヤ書は、大預言書である。

⑤ エレミヤは、捕囚期前の預言者である。

(2) エレミヤの特徴

① エレミヤという名前の意味

* 「ヤハウエは確立される」、「ヤハウエは高く上げられる」など。

② 彼は、「涙の預言者」として知られている。

* 涙の訳を知ったなら、エレミヤ書のメッセージを理解したことになる。

③ 彼は、他の預言者の誰よりも、自分の性格や心情を表現している。

④ 彼は、繊細で慎み深い人物であるが。

* 神は、その彼を、ユダの罪を激しく糾弾する奉仕に召された。

(3) 時代背景：エレ 1：2～3

Jer 1:2 アモンの子、ユダの王ヨシヤの時代、その治世の第十三年に、エレミヤに【主】のことばがあった。

Jer 1:3 それはさらに、ヨシヤの子、ユダの王エホヤキムの時代にもあり、ヨシヤの子、ユダの王ゼデキヤの第十一年の終わりまで、すなわち、その年の第五の月、エルサレムの民の捕囚の時までであった。

① ヨシヤ王の第 13 年 (前 627 年) から働きを開始した。

* ヨシヤは善王であった。

* 彼の時代に、神殿で巻物が発見され、礼拝が回復された。

② 次にエホアハズの治世が 3 ヶ月続いたが、それは省略されている。

③ 次にエホヤキム (前 608～597 年) が統治した。

* エホヤキムは悪王で、エレミヤを激しく迫害した。

④ 次にエホヤキンの治世が 3 ヶ月続いたが、それも省略されている。

⑤ 最後の王はゼデキヤ (597～586 年) であった。

(4) 国際情勢

- ①エレミヤが活動を開始した当時は、アッシリヤが覇権国であった。
- ②しかし、エジプトとバビロンがその力を増しつつあった。
- ③前 607 年、バビロンはニネベを攻略し、アッシリヤを滅ぼした。
- ④次にバビロンは、ユダに侵攻してきた。
- ⑤ユダの指導者層は、エジプトに援助を求めるように王に進言した。
- ⑥エレミヤは、それに反対した。
*ユダの希望は、悔い改めによって【主】に立ち返ることにある。
- ⑦バビロンは、ユダを征服し、エルサレムを破壊した (前 586 年)。
- ⑧エレミヤは、エルサレムの崩壊を嘆き、「哀歌」を書いた。

(5) エレミヤ書のアウトライン

- ①ヨシヤの治世下での預言者としての召し (1 章)
- ②ゼデキヤの治世以前のエルサレムとユダに対する預言 (2～20 章)
- ③ゼデキヤの治世下での預言 (21～29 章)
- ④12 部族の将来に関する預言 (30～39 章)
- ⑤エルサレム崩壊後にユダに留まった人たちへの預言 (40～42 章)
- ⑥エジプトで語られた周辺諸国に対する預言 (43～51 章)
- ⑦エルサレム崩壊の預言の成就 (52 章)

2. アウトライン

- (1) エレミヤの経歴
- (2) エレミヤ書の中心メッセージ
- (3) エレミヤとイエスの対比

エレミヤ書の内容について学ぶ。

I. エレミヤの経歴

1. エレ 1:1

Jer 1:1 ベニヤミンの地アナトテにいた祭司のひとり、ヒルキヤの子エレミヤのことば。

- (1) 彼は、ベニヤミンの地アナトテで祭司の息子として誕生した。
 - ①アナトテは、エルサレムのすぐ北にある町である。
 - ②父の名は、ヒルキヤである。

2. エレ 1:5

Jer 1:5 「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、／あなたを知り、／あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、／あなたを国々への預言者と定めていた。」

- (1) 彼は、誕生する前から預言者に定められていた。

- ① 私たちも、誕生する前から、キリストの弟子となるように定められていた。
- ② 最もふさわしくない者が、キリストにあって選ばれた。

3. エレ 1 : 6

Jer 1:6 そこで、私は言った。／「ああ、神、主よ。／ご覧のとおり、私はまだ若くて、／どう語っていいかわかりません。」

- (1) 若くして預言者として召された。

① 神のことばを語るのが使命であるので、年齢は関係がない。

- (2) 【主】がエレミヤの口にことばを授けてくださった (エレ 1 : 9～10) 。

4. 2 歴 35 : 25

2Ch 35:25 エレミヤはヨシヤのために哀歌を作った。そして、男女の歌うたいはみな、今日に至るまで、彼らの哀歌の中でヨシヤのことを語り、これをイスラエルのために慣例としている。これらは哀歌にまさしくしるされている。

- (1) 彼は、ヨシヤ王の治世に預言者としての働きを開始した。

① そして、ヨシヤ王の死を目撃し、哀歌を作った。

5. エレ 16 : 1～4

Jer 16:1 次のような【主】のことばが私にあった。

Jer 16:2 「あなたは妻をめとるな。またこの所で、息子や娘を持つな。」

Jer 16:3 まことに、【主】は、この所で生まれる息子や娘につき、また、この国で、彼らを産む母親たちや、彼らを生ませる父親たちについて、こう仰せられる。

Jer 16:4 「彼らはひどい病気で死ぬ。彼らはいたみ悲しまれることなく、葬られることもなく、地面の肥やしとなる。また、剣とききんで滅ぼされ、しかばねは空の鳥や地の獣のえじきとなる。」

- (1) 彼は、結婚を禁じられた。

① 彼が住んだ時代は、悲惨な時代である。

② ユダは、自らの罪のゆえに苦難に会う。

6. エレ 12 : 6

Jer 12:6 あなたの兄弟や、父の家の者さえ、／彼らさえ、あなたを裏切り、／彼らさえ、／あなたのあとから大声で呼ばわるのだから、／彼らがあなたに親切そうに語りかけても、／彼らを信じてはならない。

- (1) エレミヤは、同時代の人たちから拒否され、迫害された。

① 拒否され、打たれ、足かせにつながれ、投獄され、売国奴の烙印を押された。

7. エレ 9 : 1

Jer 9:1 ああ、私の頭が水であったなら、／私の目が涙の泉であったなら、／私は昼も夜も、／私の娘、私の民の殺された者のために／泣こうものを。

(1) 彼は、自分が語っているメッセージのゆえに、涙を流した。

8. エレ 20 : 9

Jer 20:9 私は、「主のことばを宣べ伝えまい。／もう主の名で語るまい」と思いましたが、／主のみことばは私の心のうちで、／骨の中に閉じ込められて／燃えさかる火のようになり、／私はうちにしまっておくのに／疲れて耐えられません。

(1) 彼は、預言者を止めたいと思ったが、【主】はそれを許さなかった。

9. その後のエレミヤ

- ①エルサレムの陥落とバビロン捕囚を目撃した。
- ②バビロン軍の将軍によって、エルサレムに留まることを許された。
- ③エルサレムに残った人たちがエジプトに逃げようとしたとき、反対した。
- ④エジプトに逃げる人たちとともにエジプトに下ることを強要された。
- ⑤エレミヤは、エジプトで死んだ（伝承では、同胞による石打ちで死んだ）。

II. エレミヤ書の中心メッセージ

1. 彼に与えられた使命は、容易なものではなかった。

- (1) 偶像礼拝の罪の糾弾
- (2) 70 年の捕囚の預言 (25 : 1～38)
- (3) 捕囚からの帰還と国の再建
- (4) 新しい契約の預言 (31 : 1～40)
 - ①石に書かれた律法の契約ではなく、心に書かれた律法の契約。
 - ②【主】と契約の民イスラエルの間の契約である。
- (5) 周辺諸国に対する裁きの預言
 - ①ユダに対する【主】の計画の宣言

2. 「背信」 (backslide) がキーワードである。

(1) エレ 2 : 19

Jer 2:19 あなたの悪が、あなたを懲らし、／あなたの背信が、あなたを責める。／だから、知り、見きわめよ。／あなたが、あなたの神、【主】を捨てて、／わたしを恐れないのは、／どんなに悪く、苦々しいことかを。／——万軍の神、主の御告げ——

(2) ユダの民は偶像礼拝に走った。

①偽預言者たちの扇動

②エレミヤは、「背信」という言葉を11回使用し、悔い改めを迫った。

(3) エレミヤは民の運命を思い、嘆いた。

Jer 13:17 もし、あなたがたがこれに聞かなければ、／私は隠れた所で、／あなたがたの高ぶりのために泣き、涙にくれ、／私の目は涙を流そう。／【主】の群れが、とりこになるからだ。

Ⅲ. エレミヤとイエスの対比

1. マタ 16 : 13～14

Mat 16:13 さて、ピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。「人々は人の子をだれだと言っていますか。」

Mat 16:14 彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。」

(1) 人々は、イエスとエレミヤの間に類似点があることを認識していた。

2. 類似点

(1) エレミヤは、独身を貫いた。

①イエスも結婚しなかった。

(2) エレミヤは、ユダの民から拒否された。

①イエスもご自分の民から拒否された。

(3) エレミヤは、バビロンの脅威が迫り来る中で奉仕をした。

①イエスは、ローマの脅威が迫り来る中で奉仕をした。

(4) エレミヤは、ユダの民から「売国奴（裏切り者）」と見なされた。

①イエスも、ご自分の民から「売国奴（裏切り者）」と見なされた。

(5) エレミヤは偽預言者たちの攻撃を受けた（預言者の中で最も苦しんだ）。

①イエスも、パリサイ人や律法学者たちの攻撃を受けた。

(6) エレミヤは、エルサレムのために涙を流し、その崩壊を預言した。

①イエスも、エルサレムのために涙し、その崩壊を預言した。

(7) エレミヤは、少人数の弟子しかいなかった。

①イエスも、少人数の弟子しかいなかった。

(8) エレミヤは、新しい契約を預言した。

Jer 31:31 見よ。その日が来る。——【主】の御告げ——その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。

Jer 31:32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。——【主】の御告げ——

Jer 31:33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——【主】の御告げ——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

①イエスは、新しい契約を結ばれた。

Mat 26:27 また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。

Mat 26:28 これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。

(9) 結論

①両者の働きは、失敗のように見えた。

②しかし神は、彼らの働きを成功へと導かれた。

60 分でわかる旧約聖書 (25) 「哀歌」

1. はじめに

(1) 預言者エレミヤ

- ①エレミヤは、捕囚期前の預言者である。
- ②彼は、「涙の預言者」として知られている。
 - *涙の訳を知ったなら、エレミヤ書のメッセージを理解したことになる。
- ③彼は、繊細で慎み深い人物であるが、ユダの罪を糾弾する奉仕に召された。
- ④ヨシヤ王の第 13 年 (前 627 年) から働きを開始した。
- ⑤最後の王ゼデキヤ (597～586 年) の代まで働きを続けた。

(2) 国際情勢

- ①エレミヤが活動を開始した当時は、アッシリヤが覇権国であった。
- ②しかし、エジプトとバビロンがその力を増しつつあった。
- ③前 607 年、バビロンはニネベを攻略し、アッシリヤを滅ぼした。
- ④次にバビロンは、ユダに侵攻してきた。
- ⑤ユダの指導者層は、エジプトに援助を求めるように王に進言した。
- ⑥エレミヤは、それに反対した。
 - *ユダの希望は、悔い改めによって【主】に立ち返ることにある。
- ⑦バビロンは、ユダを征服し、エルサレムを破壊した (前 586 年)。
- ⑧エレミヤは、エルサレムの崩壊を嘆き、「哀歌」を書いた。

2. アウトライン

(1) 書名

(2) 特徴

(3) 構成

- ①嘆きのパターン
- ②アルファベット歌
- ③キアズム (交差対句法)

3. 結論

- (1) 不信仰の罪がもたらす 3 つの嘆き
- (2) 申命記 28 章との関係

哀歌の内容について学ぶ。

I. 書名

1. 哀歌 1 : 1 の最初の言葉から取られている。

Lam 1:1 ああ、人の群がっていたこの町は、／ひとり寂しくすわっている。／国々の中で大いなる者であったのに、／やもめのようにになった。／諸州のうちの女王は、／苦役に服した。

(1) 「ああ」と訳された言葉は、「アイェカー」である。

- ①「なにゆえ」(新共同訳)
- ②「ああ」(口語訳)
- ③「ああ哀しいかな」(文語訳)
- ④英語では、「Alas!」や「How」などと訳される。

(2) この言葉は、嘆きの表現に特徴的なものである。

①2サム 1 : 19 (ダビデが詠んだ「弓の歌」)

2Sa 1:19 「イスラエルの誉れは、／おまえの高き所で殺された。／ああ、勇士たちは倒れた。

②エレ 9 : 19

Jer 9:19 シオンから嘆きの声が聞こえるからだ。／ああ、私たちは踏みにじられ、いたく恥を見た。／私たちが国を見捨て、／彼らが私たちの住まいを投げやったからだ。

2. ラビ文書やタルムードは、「キノット」(弔歌)という書名を採用した。

(1) 七十人訳聖書(ギリシア語)

①その言葉を「スレノイ」と訳した。

(2) ヴルガータ訳聖書(ラテン語)

①その言葉を「スレニ」と訳した。

(3) 英語訳聖書

①その言葉を「Lamentations」と訳した。

②あるいは、「The Lamentations of Jeremiah」と訳した。

II. 特徴

1. 哀歌は、エレミヤ書の続編、あるいは、後書きである。

(1) 七十人訳聖書は、前書きを付けている。

「イスラエルが捕囚に引かれて行き、エルサレムが荒廃した後、エレミヤは座して嘆き、エルサレムのために哀歌を詠んで、こう言った」

①ヴルガータ訳も同じ前書きを付けている。

- (2) エレミヤが預言した通りのことが起こった。
 - ①エルサレムは略奪され、神殿は破壊された。
 - ②ユダの民はバビロン捕囚に連行された。
 - ③しかし、エレミヤはそれを自慢するのではなく、大いに嘆いた。
- (3) エレミヤは、弔歌（挽歌）を書いた。
 - ①エルサレム崩壊（前 586 年）の直後であろう。
 - ②弔歌とは、死者を弔うための歌である。
 - *エルサレムが死んだことを嘆いているのである。
 - ③通常、弔歌では死者の長所を挙げて、死者の死を悼む。
 - ④哀歌では、エルサレムの罪への言及がたびたび出てくる。

2. 哀歌には、5 つの弔歌がある。

- (1) 哀歌は 5 章から成っている。
 - ①それぞれの章が独立した弔歌である。
- (2) 過去を振り返るだけの悲しみの書ではない。
 - ①ここには、残れる者たちへのメッセージがある。
 - ②それは、罪がもたらす悲惨な結果を思い出させるためのメッセージである。
 - ③さらに、神に立ち返れという希望のメッセージがある。

Ⅲ. 構成

1. 嘆きのパターン

- (1) 「ああ」（アイエカー）の繰り返し
 - ①「ああ」（アイエカー）は、深い悲しみを表現する言葉である。
- (2) 5 章の中の 3 章までが、この言葉で始まっている。
 - ①哀 1 : 1

Lam 1:1 ああ、人の群がっていたこの町は、／ひとり寂しくすわっている。／国々の中で大いなる者であったのに、／やもめのようになった。／諸州のうちの女王は、／苦役に服した。

- ②哀 2 : 1

Lam 2:1 ああ、主はシオンの娘を／御怒りで曇らせ、／イスラエルの栄えを天から地に投げ落とし、／御怒りの日に、／ご自分の足台を思い出されなかった。

③哀 4 : 1

Lam 4:1 ああ、金は曇り、美しい黄金は色を変え、／聖なる石は、あらゆる道ばたに投げ出されている。

2. アルファベット歌

(1) 1～4 章がアルファベット歌になっている。

①翻訳は不可能である。

(2) 哀歌の 1 章、2 章、4 章は 22 節から成っている。

①ヘブル語のアルファベットは 22 文字から成る。

(3) 哀歌の 3 章は、66 節から成っている。

①3 節ごとの区切りで、アルファベット歌になっている。

②3 章が最も重要な章である。

(4) 5 章だけがアルファベット歌ではない。

①5 章も 22 節から成っている。

(5) アルファベット歌になっている理由

①イスラエルの民が暗唱しやすいようにするための文学手法であろう。

*エルサレム崩壊から来る教訓を、民が忘れないようにした。

②罪がもたらす結果の恐ろしさを教えるための文学手法であろう。

*エルサレムが経験したのは、神の裁きの「A から Z」である。

3. キアズム (交差対句法)

(1) 意図的な文学的工夫がある。

①1 章は、民に焦点を合わせている。

②2 章は、【主】に焦点を合わせている。

③3 章は、苦難の中でのエレミヤの応答である。

④4 章は、【主】に焦点を合わせている。

⑤5 章は、民に焦点を合わせている。

*「民－【主】－エレミヤ－【主】－民」という流れになっている。

(2) 完璧な対称形を破るために、5 章をアルファベット歌にしていない。

①5 章は、神の裁きに対する民の応答である。

②哀 5 : 1

Lam 5:1 【主】よ。私たちに起こったことを思い出してください。／私たちのそしりに目を留めてください。／願ってください。

③哀 5 : 22

Lam 5:22 それとも、／あなたはほんとうに、私たちを退けられるのですか。／きわみまで私たちを怒られるのですか。

④哀歌は、民を悔い改めに導く書である。

結論

1. 不信仰の罪がもたらす 3 つの嘆き

(1) エルサレムの崩壊とバビロン捕囚を目撃したユダの残れる者たちの嘆き

①エレミヤもその一員である。

②と同時に、彼は残れる者たちの代弁者でもある。

(2) 十字架上でのメシアの嘆き

①哀 1 : 12

Lam 1:12 道行くみなの人よ。よく見よ。／【主】が燃える怒りの日に私を悩まし、／私をひどいめに会わされた／このような痛みがほかにあるかどうかを。

②メシアは、私たちの罪のために不条理な苦しみを通過された。

(3) 将来のイスラエルの民の嘆き

①不信仰なイスラエルの民は、大患難時代を通過する。

②エレ 30 : 7

Jer_30:7 災いだ、その日は大いなる日／このような日はほかにはない。ヤコブの苦しみの時だ／しかし、ヤコブはここから救い出される。

2. 申命記 28 章との関係

(1) 哀歌は、申 28 章に預言されている呪いが成就したことを示そうとしている。

①John A. Martin (1975 年、ダラス神学校に提出された修士論文)

(2) エレミヤの悲しみや苦難は、約 900 年前にモーセが預言していたものである。

①モーセは、不信仰がもたらす悲惨な結果を預言していた。

②神は、ご自身の約束通り、不信仰と不従順の罪を裁かれた。

(3) 神は、ご自身がイスラエルと結ばれた契約に忠実なお方である。

①イスラエルは、罪のゆえに裁かれた。

②しかし、神の恵みのゆえに滅びることはなかった。

③悔い改めなら、イスラエルは回復される (申 30 : 1~10) 。

(4) エレミヤは、【主】への立ち返りを民に説いた。

①哀 3 : 21~32

Lam 3:21 私はこれを思い返す。／それゆえ、私は待ち望む。

Lam 3:22 私たちが滅びうせなかったのは、【主】の恵みによる。／主のあわれみは尽きないからだ。

Lam 3:23 それは朝ごとに新しい。／「あなたの真実力は強い。

Lam 3:24 【主】こそ、私の受ける分です」と／私のたましいは言う。／それゆえ、私は主を待ち望む。

Lam 3:25 【主】はいつくしみ深い。／主を待ち望む者、主を求めるたましいに。

Lam 3:26 【主】の救いを黙って待つのは良い。

Lam 3:27 人が、若い時に、くびきを負うのは良い。

Lam 3:28 それを負わされたなら、／ひとり黙ってすわっているがよい。

Lam 3:29 口をちりにつけよ。／もしや希望があるかもしれない。

Lam 3:30 自分を打つ者に頬を与え、／十分そしりを受けよ。

Lam 3:31 主は、いつまでも見放してはおられない。

Lam 3:32 たとい悩みを受けても、／主は、その豊かな恵みによって、／あわれんでくださる。

(5) 哀 5 : 21~22 は、哀歌に書かれた教訓を学んだ人々の祈りである。

Lam 5:21 【主】よ。あなたのみもとに帰らせてください。／私たちは帰りたいのです。／私たちの日を昔のように新しくしてください。

Lam 5:22 それとも、／あなたはほんとうに、私たちを退けられるのですか。／きわみまで私たちを怒られるのですか。

60 分でわかる旧約聖書 (26) 「エゼキエル書」

1. はじめに

(1) 預言者たちの中でのエゼキエルの位置づけ

① 預言書を書いた預言者 (the writing prophet)

* 王国が南北に分裂して以降に登場した (前 930 年頃)。

② 同世代の人たちに、神のことばを伝えた。「預言者」である。

③ 将来起こることを預言した。「予言者」である。

④ エゼキエル書は、大預言書である。

⑤ エゼキエルは、捕囚期の預言者である。

(2) エゼキエル書の特徴

① エゼキエルという名前の意味

* 「神は励ます」、「神によって励まされた」など。

② エゼキエル書は、「最も難解な預言書」として知られている。

* しかし、無視するなら、旧約で最も霊的な部分を見逃したことになる。

③ この書の預言は、時系列に沿って配置されている。

* 例外は、エゼ 29 : 1 から始まる預言と、29 : 17 から始まる預言だけ。

* この例外は、エゼ 29~32 章 (エジプトに対する預言) がテーマ別に並んでいるために起こっているものである。

(3) 時代背景

① 第 1 回バビロン捕囚 (前 605 年)

* エホヤキムの治世の第 3 年 (ダニ 1 : 1)

* この時、ダニエルがバビロンに連行された。

② 第 2 回バビロン捕囚 (前 597 年)

* エホヤキンの治世 (彼の治世はわずか 3 ヶ月)

* この時、エゼキエルがバビロンに連行された。

③ 第 3 回バビロン捕囚 (前 586 年)

* エルサレムが陥落し、神殿が破壊された。

④ エゼキエルは、前 593 年から預言者としての活動を開始した。

* エホヤキンが捕囚となって 5 年目である (エゼ 1 : 2~3)。

* 活動は、前 571 年まで続いた (エゼ 29 : 17)。

* 30 歳から 52 歳までの約 22 年間の活動であった。

⑤ 活動開始時点では、まだエルサレムは陥落していなかった。

* エゼキエルは、エルサレムと神殿の崩壊を預言した。

*捕囚民たちは、依然としてエルサレム帰還の希望を持っていた。

2. アウトライン

- (1) エゼキエルの経歴
- (2) エゼキエル書の特長
- (3) エゼキエル書のアウトライン
- (4) エゼキエル書の文学手法
- (5) エゼキエルと他の預言者の対比

エゼキエル書の内容について学ぶ。

I. エゼキエルの経歴

1. 詩 137 : 1～2

Psa 137:1 バビロンの川のほとり、／そこで、私たちはすわり、／シオンを思い出して泣いた。

Psa 137:2 その柳の木々に／私たちは立琴を掛けた。

- (1) 捕囚民たちは、歌を歌うこともなく、シオンを思い出して泣いた。
 - ①捕囚民たちの心の状態がよく表現されている。

2. エゼ 1 : 1

Eze 1:1 第三十年の第四の月の五日、私がケバル川のほとりで、捕囚の民とともにいたとき、天が開け、私は神々しい幻を見た。

- (1) 捕囚民たちが嘆いている時に、エゼキエルは神々しい幻を見た。
 - ①罪を糾弾すると同時に、苦難の時には希望を語るのが預言者の使命である。
 - ②彼は、エルサレム陥落までは、民の罪を糾弾する。
 - ③エルサレム陥落以降は、回復の希望を語る。
 - ④「第三十年」は、エゼキエルが預言者として召された時の年齢である。

3. エゼ 1 : 3

Eze 1:3 カルデヤ人の地のケバル川のほとりで、ブジの子、祭司エゼキエルにはっきりと【主】のことばがあり、【主】の御手が彼の上にあった。

- (1) ケバル川のほとり
 - ①灌漑用水路として造られた川である。
 - ②そこにテル・アビブという町があり、捕囚民たちは、そこに住まわされた。
 - ③エゼキエルの奉仕は、テル・アビブに住む捕囚民に対するものであった。
- (2) エゼキエルは、ブジの子で、祭司であった。

①30 歳から祭司の働きが始まるが、エゼキエルは預言者の奉仕を始めた。

②旧約聖書には、3 人の祭司-預言者が登場する。

*エレミヤ、ゼカリヤ、エゼキエル

③祭司であったことがメッセージの内容に影響している。

*エルサレムの神殿に対する強い関心

*【主】の栄光の強調

*エルサレムにいる祭司たちの行動への関心

*将来の神殿の預言

Ⅱ. エゼキエル書の特長

1. 神の栄光の強調

(1) エゼ 1 : 28

Eze 1:28 その方の回りにある輝きのさまは、雨の日の雲の間にある虹のようであり、それは【主】の栄光のように見えた。私はこれを見て、ひれ伏した。そのとき、私は語る者の声を聞いた。

①預言者として召される前に見た神の栄光

(2) エゼ 3 : 12

Eze 3:12 それから、霊が私を引き上げた。そのとき、私は、うしろのほうで、「御住まいの【主】の栄光はほむべきかな」という大きなとどろきの音を聞いた。

①捕囚民のところに行く前に見た神の栄光

(3) エゼ 11 : 22～23

Eze 11:22 ケルビムが翼を広げると、輪もそれといっしょに動き出し、イスラエルの神の栄光がその上のほうにあった。

Eze 11:23 【主】の栄光はその町の真ん中から上って、町の東にある山の上にとどまった。

①【主】の栄光が神殿を去り、オリーブ山の上にとどまった。

②これ以降、主イエスが神殿に入られるまで、神の栄光は去ったままになった。

(4) エゼ 43 : 4～5

Eze 43:4 【主】の栄光が東向きの門を通して宮に入って来た。

Eze 43:5 霊は私を引き上げ、私を内庭に連れて行った。なんと、【主】の栄光は神殿に満ちていた。

①千年王国の神殿に【主】の栄光が戻って来る。

2. 神の性質の強調

(1) エゼ 20 : 9

Eze 20:9 しかし、わたしはわたしの名のために、彼らが住んでいる諸国の民の目の前で、わたしの名を汚そうとはしなかった。わたしは諸国の民の目の前で彼らをエジプトの地から連れ出す、と知らせていたからだ。

①神がイスラエルの民をエジプトから連れ出したのは、ご自身の栄誉のためであった。

②神は、契約を守るお方である。

③「わたしの名を汚そうとはしなかった」という表現は、15 回出てくる。

(2) エゼ 6 : 7

Eze 6:7 刺し殺された者があなたがたのうちに横たわるとき、あなたがたは、わたしが【主】であることを知ろう。

①人々の罪が裁かれるとき、民は【主】がそれを為したことを知るようになる。

②「わたしが【主】であることを知ろう」という表現は、60 回以上出てくる。

III. エゼキエル書のアウトライン

1. 預言者としての召命 (1～3 章)

2. ユダに対する裁きの宣言 (4～24 章)

(1) 不従順な民 (4～7 章)

(2) 去って行くシャカイナグローリー (8～11 章)

(3) 空しい希望と霊的腐敗の歴史 (12～24 章)

3. 異邦人諸国に対する裁きの宣言 (25～32 章)

4. 神の民の回復 (33～48 章)

(1) 祖国帰還 (33～36 章)

(2) 新しい命の約束と統一化の預言 (37 章)

(3) 敵からの守り (38～39 章)

(4) 【主】を礼拝する民 (40～48 章)

IV. エゼキエル書の文学手法

はじめに

(1) 頑なな民に神のことばを伝えるための手法

(2) 民の応答を引き出すために、ドラマチックな手法を採用した。

1. ことわざ (格言)

(1) エゼ 12 : 22～23

Eze 12:22 「人の子よ。あなたがたがイスラエルの地について、『日は延ばされ、すべての幻は消えうせる』と言っているあのことわざは、どういうことなのか。

Eze 12:23 それゆえ、神である主はこう仰せられると言え。『わたしは、あのことわざをやめさせる。それで、彼らはイスラエルでは、もうくり返してそれを言わなくなる。かえって、その日は近づき、すべての幻は実現する』と彼らに告げよ。

①人々は、預言者の預言は成就しないといていた。

* 日々は過ぎ去るが、預言は成就していない。

* 預言者の幻は、消えてなくなる。

②【主】は、そのことわざは無効になると言われる。

(2) その他の聖句

①エゼ 16 : 44、18 : 2～3

2. 幻

(1) エゼ 37 : 9～10

Eze 37:9 主はわたしに言われた。「霊に預言せよ。人の子よ、預言して霊に言いなさい。主なる神はこう言われる。霊よ、四方から吹き来れ。霊よ、これらの殺されたものの上に吹きつけよ。そうすれば彼らは生き返る。」

Eze 37:10 わたしは命じられたように預言した。すると、霊が彼らの中に入り、彼らは生き返って自分の足で立った。彼らは非常に大きな集団となった。

①枯れ骨の谷の幻

②イスラエル再生の預言

③イエスを信じるユダヤ人たちが約束の地に帰還したときに、この預言は成就する。

(2) その他の聖句

①1～3 章 (【主】の栄光)

②8～11 章 (神殿での偶像礼拝)

③40～48 章 (千年王国の神殿)

3. たとえ話

(1) エゼ 17 : 1～24 (二羽の鷲とぶどうの木)

①謎解きを必要とするたとえ話である。

②ぶどうの木は、ゼデキヤである。

③ネブカデネザル (最初の鷲) か、エジプト (次の鷲) か。

(2) エゼ 24 : 1～14 (火の上の鍋)

- ①バビロン軍によるエルサレムの崩壊
- ②鍋はエルサレム、肉はユダヤ人たち、火は神の裁き。
- ③鍋は空にされ、火で清められるが、さびは落ちなかった。

4. 象徴的行為

(1) エゼ 12 : 4～6

Eze 12:4 あなたは、白昼彼らの目の前で、自分の荷物を、捕囚の荷物として持ち出しなさい。また、夕方彼らの目の前で捕囚の民が出て行くように、出て行きなさい。

Eze 12:5 彼らの目の前で、壁に穴をうがち、そこから荷物を運び出しなさい。

Eze 12:6 彼らの目の前で、荷物を肩に担ぎ、暗闇の中で運び出しなさい。顔を覆ってこの土地を見ないようにしなさい。わたしはあなたを、イスラエルの家に対するしるしとする。」

- ①エルサレムの崩壊を信じない民に対するメッセージである。

(2) その他の聖句

- ①エゼ 4～5 章
- ②エゼ 24 : 15～27

V. エゼキエルと他の預言者の対比

1. エゼキエル、エレミヤ、ダニエルは、同時代の預言者たちである。

(1) エレミヤ

- ①エゼキエルよりも年上。すでに老年になっていた。
- ②エレミヤは、残れる者たちとともに約束の地に留まった。
- ③その後、エジプトに連行された。
- ④彼の最後の奉仕は、エジプトに住むユダヤ人たちのためのものであった。

(2) ダニエル

- ①ダニエルは、バビロンにある王宮に連行された。
- ②そこで高い地位に就き、重要な預言を語った。
- ③テル・アビブを訪問したことはないが、ユダヤ人たちを擁護した。

(3) エゼキエル

- ①彼は、ケバル川で捕囚民とともに住み、そこで奉仕をした。
- ②いわば、庶民のための奉仕であった。

(4) この 3 者には面識はなかったと思われる。

①ダニエルは、エレミヤの預言を知っていた。

(5) それぞれが、自分に与えられた任務を忠実に果たした。

2. 三位一体の神との関係

(1) イザヤは、子なる神の預言者である。

①彼は、メシアの誕生を預言した。

②彼は、メシアの受難を預言した。

(2) エレミヤは、父なる神の預言者である。

①彼は、父なる神の涙を自分の涙とし、民に悔い改めを迫った。

②父なる神が契約に忠実な方であるがゆえに、民には希望があると語った。

(3) エゼキエルは、聖霊なる神の預言者である。

①父なる神が計画し、子なる神が実行し、聖霊なる神が完成へと導く。

②エゼ 37 章の枯れ骨の民の幻は、聖霊なる神の働きを預言している。

③エゼ 37 章はいつ成就するのか。

*ユダヤ人たちの霊的回復

*メシアの再臨

*千年王国の設立

60 分でわかる旧約聖書 (27) 「ダニエル書」

1. はじめに

(1) ダニエル書の位置づけ

- ①ヘブル語聖書では、第 2 区分の預言者には含まれていない。
- ②第 3 区分の諸書 (Writings) に含まれている。
- ③この書の中では、ダニエルは預言者と呼ばれていない。
- ④しかし、主イエスはダニエルを預言者と呼んでおられる。

Mat 24:15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』が、聖なる所に立つのを見たならば、(読者はよく読み取るように。)

(2) 著者ダニエル

- ①同時代の預言者エゼキエルは、ダニエルを義人と呼んでいる。
 - * ノア、ダニエル、ヨブが並んで登場する (エゼ 14 : 14、20) 。
- ②エゼキエルは、ダニエルを知恵ある者として紹介している (エゼ 28 : 3) 。
- ③家族関係についてはほとんど知られていない。
 - * ユダ部族の属する貴族の生まれである (1 : 3、6) 。
 - * 心身ともに優れている (1 : 4) 。
- ④ネブカデネザルによって連行されたのは、前 605 年であった。
- ⑤ペルシヤの王クロスの第 3 年 (前 536 年) には、まだ生きていた (10 : 1) 。
- * 彼の活動は 70 年前後にも及んだ。

(3) ダニエル書の文学形式

- ①聖書の中の最初の黙示文学である。
 - * 黙示 = 「アポカリプシス」 (ギリシア語) = 「アポカリプス」 (英語)
 - * 覆いを取る、啓示などの意味がある。
 - * 聖書全体が神の啓示であるが、啓示の様態が特殊なものを黙示と呼ぶ。
- ②黙示文学の特徴
 - * 神の幻を見た者が、その内容を書き記す。
 - * 象徴 (シンボル) やしるし (サイン) が、多用される。
 - * 通常は、神の民イスラエルの将来に関する啓示である。
 - * 他の預言書では韻文が用いられるが、黙示文学では散文が用いられる。
- ③他の黙示文学
 - * エゼ 37~48
 - * ゼカ 1 : 7~7 : 8
 - * 黙示録

④黙示文学の解釈

- *主観的解釈を慎む。
- *聖書が聖書を解釈するという原則を常に意識する。
- *厳密な聖書研究をしなければ、黙示文学の解釈は不可能である。

(4) ダニエル書の言語

①1 : 1~2 : 4a は、ヘブル語で書かれている。

②2 : 4b~7 : 28 は、アラム語で書かれている。

③8~12 章は、ヘブル語で書かれている。

④その理由

- *ヘブル語は、契約の民イスラエルの言語である。
- *アラム語は、当時の共通語である（異邦人の言語）。
- *ダニエル書には、2つの強調点がある。
- *異邦人諸国に対する神の計画（アラム語で書かれている）
- *契約の民イスラエルに対する神の計画（ヘブル語で書かれている）

2. アウトライン

(1) ダニエル書の要約

①1 章 : バビロン捕囚

②2~4 章 : 巨大な像の幻

③5~7 章 : 壁に書かれた文字

④8~12 章 : 将来の御国の幻

(2) ダニエル書の目的

- ①献身の勧め
- ②異邦人諸国に対する神の主権
- ③契約の民に対する神の忠実さ

ダニエル書の内容について学ぶ。

I. ダニエル書の要約

1. 1 章 : バビロン捕囚

(1) バビロン軍によるエルサレム征服

- ①ユダの王エホヤキムの第 3 年、ネブカデネザルが神殿を略奪した。
- ②王は、王族か貴族の少年を数人選んでバビロンに連行した。
- ③その中に、ダニエルと 3 人の友人たちが含まれていた。

Dan 1:7 宦官の長は彼らにほかの名をつけ、ダニエルにはベルテシャツアル、ハナヌヤにはシャデラク、ミシャエルにはメシャク、アザルヤにはアベデ・ネゴと名をつけた。

- (2) 少年たちは、汚れを避けるために、王が提供するごちそうを食べなかった。
 - ①彼らは、ベジタリアンになった（主食は穀物である）。
 - ②その結果、王のごちそうを食べる少年たちよりも、顔色がよくなった。

- (3) 彼らは、神の助けによって、王の宮廷で仕えることになった。

Dan 1:19 王が彼らと話してみると、みなのうちでだれもダニエル、ハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤに並ぶ者はなかった。そこで彼らは王に仕えることになった。

Dan 1:20 王が彼らに尋ねてみると、知恵と悟りのあらゆる面で、彼らは国中のどんな呪法師、呪文師よりも十倍もまさっているということがわかった。

2. 2～4 章：巨大な像の幻

- (1) ネブカデネザルは、巨大な像の夢を見た（2 章）。
 - ①ダニエルだけがそれを言い当て、解き明かしをすることができた。
 - ②この像は、将来起こる異邦人の帝国を預言したものであった。

- (2) ネブカデネザルは、自分の像を作り、それを拝むように命じた（3 章）。
 - ①シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴは、それを拒否した。
 - ②彼らは、7 倍熱くした炉の中に投げ込まれた。
 - ③炉の中に第 4 の者が現れ、彼らを守った。

- (3) 神は、ネブカデネザルの傲慢を裁かれた（4 章）。
 - ①ネブカデネザルは、獣のようになった。

Dan 4:33 このことばは、ただちにネブカデネザルの上に成就した。彼は人間の中から追い出され、牛のように草を食べ、そのからだは天の露にぬれて、ついに、彼の髪の毛は鷲の羽のようになり、爪は鳥の爪のようになった。

- ②正気に戻ったとき、神をほめたたえた。

3. 5～7 章：壁に書かれた文字

- (1) ネブカデネザルの息子ベルシャツアルは、エルサレムの神殿から略奪してきた器を、宴会のために用いた（5 章）。
 - ①突然、人間の指が現れ、宮廷の壁に文字を書いた。
 - ②それは神からの裁きのメッセージであった。
 - ③ダニエルだけが、その文字を読み解くことができた。

④ベルシャツアルは殺され、メディヤ人ダリヨスがその国を受け継いだ。

(2) ダニエルは、ダリヨス王に祈願するように命じられた（6 章）。

①ダニエルは真の神に祈ったので、獅子の穴に投げ込まれた。

②王は、愚かな禁令を制定したことを悔いた。

③ダニエルは、天使によって守られた。

(3) ダニエルは、4 頭の獣の幻を見た（7 章）。

①バビロン、メド・ペルシヤ、ギリシア、帝国主義の国（ローマ）

②「人の子のような方」が到来し、御国を建てた。

4. 8～12 章：将来の御国の幻

(1) 雄羊と雄山羊の幻（8 章）

①将来の帝国の預言

(2) 70 週の預言（9 章）

①メシアの到来と死がいつになるかの預言が与えられた。

②イスラエルと 7 年の契約を結ぶ反キリストの到来。

③7 年の中間で契約が破棄される。

④後半の 3 年半が終わると、神の大いなる裁きが行われる。

⑤天使がダニエルにこの幻の解釈を与える。

(3) イスラエルの将来に関する預言（10～12 章）

II. ダニエル書の目的

1. 献身の勧め

(1) 1 章に記された内容は、捕囚の地にあってもいかに生きるべきかを教えている。

①神は、いかなる状況下にあっても、ご自身の民を忘れてはいない。

②これは、捕囚民にとって励ましとなった。

(2) ダニエルとヤコブの息子のヨセフは、似ている。

①異郷において、神に忠実であった。

②高い地位に上げられた。

③神の助けによって、夢や幻を解き明かした。

2. 異邦人諸国に対する神の主権

(1) ダニ 2 章と 7 章は、世界の覇権国の変遷の預言である。

①神は、異邦人の帝国を支配しておられる。

②神の歴史のゴールは、メシア的王国である。

(2) ルカは、「異邦人の時」という言葉を使っている。

Luk 21:24 人々は剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれる。異邦人の時代が完了するまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされる。」

①再臨のメシアが、エルサレムから世界を統治するまでは、異邦人の時が続く。

②異邦人は、イスラエルの民をどう扱うかについて注意する必要がある。

3. 契約の民に対する神の忠実さ

(1) イスラエルの民は、不従順のゆえにバビロン捕囚を経験した。

①しかし、捕囚の地にあっても、神は契約の民を守られた。

(2) ダニエル書は、メシア的王国におけるイスラエルの祝福を預言している。

①私たちは、新しい契約の民である。

②今は、神の計画に基づく過去と未来に挟まれた「今」である。

③歴史のゴールから、「今」を見ることを学ぼう。

60 分でわかる旧約聖書 (28) 「ホセア書」

1. はじめに

(1) ホセア書の位置づけ

①大預言書 (the Major Prophets)

*イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書

②小預言書 (the Minor Prophets)

*ホセア書からマラキ書までの 12 書。

③ホセア書は、捕囚期前預言書 (12) のひとつである。

(2) ホセア書の著者

①「ホセア」とは、「主は救う」という意味である。

②ヨシュア (エホシュア) やイエス (イエシュア) と同じ語幹を持つ。

③「ベエリの子」。ベエリがどういう人物であるかは不明。

④北王国イスラエル出身の預言者

*活動の地は、主に北王国イスラエルであった。

*南王国ユダに関する預言も若干含まれているが、それは例外的。

⑤前 8 世紀の預言者たち

*ホセア、アモス、イザヤ、ミカ

*アモスは南王国の預言者であるが、北王国の首都サマリヤで活動した。

*ホセアは、アモスから強い影響を受けた。

*北王国の滅亡を預言したという点で、ホセアはアモスの後継者である。

(3) ホセア書の時代背景

Hos 1:1 ユダの王ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代、イスラエルの王、ヨアシュの子ヤロブアムの時代に、ベエリの子ホセアにあった【主】のことは。

①ホセ 1:1 に書かれた活動期間は、2 歴 26~32 章に詳細に記されている。

*南王国の王が 4 人。

*北王国の王は、ヤロブアム 2 世 (前 793~753 年在位) のみ。

*南王国の王たちが正統であることを認めているのであろう。

②ホセアの活動は、「繁栄の時代」が終わろうとしている時期に始まった。

*南王国の王はウジヤ

*北王国の王はヤロブアム 2 世

*両王朝の繁栄の理由は、アッシリヤ帝国の弱体化である。

③しかし、アッシリヤは、ティグラテ・ピレセル 3 世の統治により復興する。

*北王国は、前 722 年に捕囚となった。

* 南王国は、アッシリヤ帝国の属国となった。

* アッシリヤ帝国が、神の裁きの器となるのである。

④ホセア書には、北王国の滅亡（前 722 年）の記事がない。

* ホセアの活動期間がその前に終わったと考えるのが妥当である。

⑤前 8 世紀の前半、ヤロブアム 2 世は北王国に最高の繁栄をもたらした。

* ダビデ時代の再来を思わせるような繁栄ぶりであった。

⑥ヤロブアムの死後、王の暗殺が続き、政治的、経済的試練の時代を迎えた。

⑦民の精神的支柱であった宗教が、偶像礼拝によって腐敗し、崩壊していった。

(4) ホセア書の特徴

①預言者は、神の痛みと同一化して、神のことばを語る。

②ホセアは、不幸な結婚生活を通して、神の痛みを自ら体験するようになる。

③ホセアは、悲しみと痛みを通して、「不誠実なイスラエルの民に対する神の愛」を体験的に理解することができた。

④本書の中心テーマは、「神は不誠実な民をも愛しておられる」ということ。

2. アウトライン

I. ホセア書と申命記の関係

II. イスラエルの民と【主】の関係の 6 段階

III. 私たちへの適用

1. 異邦人の救い

2. 信仰の回復

ホセア書の内容について学ぶ。

I. ホセア書と申命記の関係

1. 前 8 世紀の預言者たちの活動の背景には、申命記のメッセージと神学がある。

(1) 申命記は、【主】とイスラエルの民の契約文書である。

①イスラエルの民は、【主】だけを礼拝し、その命令に忠実に歩む。

②契約に忠実に歩むなら、祝福が下る（申 28 : 1～14）。

③契約に違反したなら、裁きを招き、最後は捕囚を経験する（申 28 : 15～68）。

(2) ホセアのメッセージの内容

①イスラエルの民の契約違反を指摘する。

②契約違反に対する神の裁きを宣言する。

③申命記に約束された究極的な回復を確認する（申 30 : 1～10）。

④つまり、罪、裁き、回復がキーワードである。

2. イエス・キリストの公生涯の背景にも、申命記のメッセージと神学がある。

(1) 悪魔の試みに勝利するイエス

①マタ 4:4 (申 8:3)

Mat 4:4 イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。」

②マタ 4:7 (申 6:16)

Mat 4:7 イエスは言われた。「『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある。」

③マタ 4:10 (申 6:13、10:20)

Mat 4:10 イエスは言われた。「引き下がり、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ』と書いてある。」

(2) イエスの贖いの本質

①アダムの子の贖い

②イスラエルの罪の贖い

*イスラエルは、神の子であるが、失敗した。

*イエスは、神の子として試みに会った。

*父から独立して、自分で判断すればよいという試みである。

II. イスラエルの民と【主】の関係の 6 段階

1. 結婚関係の始まり

(1) 【主】はイスラエルの民と契約関係に入られた。

①申命記の内容が契約書である。

②これは、霊的な結婚関係である。

③イスラエルの民は、【主】の妻である (ホセ 2:2 参照)。

2. 姦淫

(1) ホセ 1:2

Hos 1:2 【主】がホセアに語り始められたとき、【主】はホセアに仰せられた。「行って、姦淫の女をめとり、姦淫の子らを引き取れ。この国は【主】を見捨てて、はなはだしい淫行にふけているからだ。」

①預言者は、神からの召命によって、その活動を開始する。

②ホセアは、前例のない異常な命令を受けた。

③「姦淫の女」(娼婦)との結婚を命じられた。

*レビ 21:7、14 では、祭司は娼婦との結婚を禁じられた。

*ホセアは祭司ではないので、この結婚は律法違反ではない。

④「姦淫の子ら」とは、娼婦時代にその女が産んだ子どもたちのことである。

*父親がだれかも分からない子どもたちである。

(2) ホセアは神の命令に従順に、「姦淫の女」をめとる。

①その女は、「ディブライムの娘ゴメル」であった。

②彼女は、3 人の子を産んだ後に、夫を裏切り、愛人のもとに走るようになる。

(3) 「この国は主を見捨てて、はなはだしい淫行にふけているからだ」

①ホセアは、不幸な結婚の体験を通して、【主】からのことばを語る。

②ホセアの結婚生活は、イスラエルの民に対する視聴覚教育である。

③「淫行」とは、偶像礼拝のことである。

*イスラエルの民は、バアル礼拝に走った。

*バアルは、カナン人の豊穡神である。

3. 別居状態

(1) イザ 50:1

Isa 50:1 【主】はこう仰せられる。／「あなたがたの母親の離婚状は、どこにあるか。／わたしが彼女を追い出したというのなら。／あるいは、その債権者はだれなのか。／わたしがあなたがたを売ったというのなら。／見よ。あなたがたは、自分の咎のために売られ、／あなたがたのそむきの罪のために、／あなたがたの母親は追い出されたのだ。

①モーセの律法によれば、夫は離婚状を書いて妻を去らせた。

②借金がある場合は、子どもを売って返済に充てた。

③しかし、【主】はそのような理由でイスラエルの民を拒否したのではない。

④原因はすべてイスラエルの民にある。

(2) ホセ 2:2～3

Hos 2:2 「あなたがたの母をとがめよ。とがめよ。／彼女はわたしの妻ではなく、／わたしは彼女の夫ではないからだ。／彼女の顔から姦淫を取り除き、／その乳房の間から姦通を取り除け。

Hos 2:3 そうでなければ、わたしは、／彼女の着物をはいで裸にし、／生まれた日のようにして彼女をさらし、／彼女を荒野のようにし、／砂漠のようにし、／渇きで彼女を死なせよう。

①イスラエルの民の姦淫が、別居原因である。

②姦淫とは、偶像礼拝である。

4. 離婚

(1) エレミヤ書は、【主】からイスラエルの民に向けた離婚状である。

Jer 3:8 背信の女イスラエルは、姦通したというその理由で、わたしが離婚状を渡してこれを追い出したのに、裏切る女、妹のユダは恐れもせず、自分も行って、淫行を行ったのをわたしは見た。

5. 裁き

(1) ホセ 4 : 1～14 : 9 は、イスラエルの民に下る裁きを預言している。

①特に、サマリヤに下る裁きが強調されている。

②ユダの罪も糾弾される (ホセ 5 : 1～15) 。

③今も、この状態が続いている。

(2) ホセ 4 : 1～3

Hos 4:1 イスラエル人よ。／【主】のことばを聞け。／【主】はこの地に住む者と言い争われる。／この地には真実がなく、誠実がなく、／神を知ることもないからだ。

Hos 4:2 ただ、のろいと、欺きと、人殺しと、／盗みと、姦通がはびこり、／流血に流血が続いている。

Hos 4:3 それゆえ、この地は喪に服し、／ここに住む者はみな、野の獣、空の鳥とともに／打ちしおれ、海の魚さえも絶え果てる。

6. 再婚

(1) 将来の回復の預言

①【主】は、イスラエルの民を見捨てない。

②裁きは、イスラエルの民を悔い改めに導く神の方法である。

③ホセアは、妻との関係を回復するようになる。

④これは、【主】とイスラエルの民の関係の回復を予表している。

(2) ホセ 14 : 1～4

Hos 14:1 イスラエルよ。／あなたの神、【主】に立ち返れ。／あなたの不義がつかずきのもとであったからだ。

Hos 14:2 あなたがたはことばを用意して、／【主】に立ち返り、そして言え。／「すべての不義を赦して、／良いものを受け入れてください。／私たちはくちびるの果実をささげます。

Hos 14:3 アッシリヤは私たちを救えません。／私たちはもう、馬にも乗らず、／自分たちの手で造った物に／『私たちの神』とは言いません。／みなしごが愛されるのは／あなたによってだけです。」

Hos 14:4 わたしは彼らの背信をいやし、／喜んでこれを愛する。／わたしの怒りは彼らを離れ去ったからだ。

- ①悔い改めへの招き
- ②罪の告白
- ③【主】からの赦し

(3) ロマ 11 : 25～26a

Rom 11:25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、

Rom 11:26a こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。

Ⅲ. 私たちへの適用

1. 異邦人の救い

(1) ホセ 2 : 23

Hos 2:23 わたしは彼をわたしのために地にまき散らし、／『愛されない者』を愛し、／『わたしの民でない者』を、／『あなたはわたしの民』と言う。／彼は『あなたは私の神』と言おう。」

- ①「愛されない者」(ロ・ルハマ) (2 番目の子・女子) を愛する。
- ②「わたしの民でない者」(ロ・アミ) (3 番目の子・男子) を「あなたはわたしの民」と言う。
- ③名前の逆転が起こる。神との関係の逆転である。

(2) ロマ 9 : 24～26

Rom 9:24 神は、このあわれみの器として、私たちを、ユダヤ人の中からだけでなく、異邦人の中からも召してくださったのです。

Rom 9:25 それは、ホセアの書でも言っておられるとおりです。／「わたしは、わが民でない者をわが民と呼び、／愛さなかった者を愛する者と呼ぶ。

Rom 9:26 『あなたがたは、わたしの民ではない』と、／わたしが言ったその場所で、彼らは、／生ける神の子どもと呼ばれる。」

- ①パウロの引用法は、「実際の出来事+適用」である。
- ②イスラエルの民は回復される。

③異邦人も、神の民とされる。

* 異邦人は、オリーブの木の幹に接ぎ木された野生種の枝である。

2. 信仰の回復

(1) ホセア書は、神の無条件の愛を教えている。

(2) しかし神は、ご自身の子たちの行為によって辱められたり、怒りを覚えたりされる。

(3) 私たちも、神に対して同じ過ちを犯す者である。

①神は、私たちの創造主である。

②神は、私たちの贖い主である。

③神は、私たちの命を支えておられる。

(4) イスラエルの民は、罪の告白と信頼によって、神に立ち返ることができる。

(5) 私たちもまた、罪の告白によって神との関係を回復することができる。

1Jn 1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

60 分でわかる旧約聖書 (29) 「ヨエル書」

1. はじめに

(1) ヨエル書の位置づけ

①大預言書 (the Major Prophets)

*イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書

②小預言書 (the Minor Prophets)

*ホセア書からマラキ書までの 12 書。

③ヨエル書は、捕囚期前預言書 (12) のひとつである。

(2) ヨエル書の著者

Joe 1:1 ペトエルの子ヨエルにあった【主】のことば。

①ヨエルという名は、「【主】 (ヤハウエ) は神」という意味である。

②彼に関しては、父の名がペトエルであるということ以外に情報がない。

③彼は、自分が語る内容は、【主】から与えられたものであると言っている。

(3) ヨエル書の時代背景

①ヨエルは南王国ユダの預言者である。

②時代的には、オバデヤに続く預言者である。

*オバデヤ書のテーマである「【主】の日」が取り上げられている。

③アモス書に 2 度引用されているので、アモス以前の預言者だと分かる。

*ヨエル 3 : 16 とアモス 1 : 2、ヨエル 3 : 18 とアモス 9 : 13

④ヨエル書では偶像礼拝の罪はほとんど問題にはなっていない。

*南王国が比較的安定していた時期に活動していたということであろう。

*恐らく、ヨアシュ王の時代 (前 835 年頃) に活動した預言者であろう。

*ヨアシュは、南王国の善王のひとりであった。

(4) ヨエル書の特徴

①「【主】の日」が中心テーマである。

*オバデヤが取り上げていた「【主】の日」というテーマを発展させた。

*1 : 15、2 : 1、11、31、3 : 14 など。

*「【主】の日」とは、【主】の裁きの日、究極的には大患難時代のこと。

2. アウトライン

I. いなごの害 (1 章)

II. 悔い改めの呼びかけ (2 : 1~17)

Ⅲ. 赦しと回復 (2 : 18～27)

Ⅳ. 栄光の未来 (2 : 28～3 : 21)

ヨエル書の内容について学ぶ。

I. いなごの害 (1 章)

1. いなごによる大災害

Joe 1:4 かみつくいなごが残した物は、いなごが食い、／いなごが残した物は、ばったが食い、／ばったが残した物は、／食い荒らすいなごが食った。

(1) ユダの地をいなごの大群が襲った。

①その害は、今まで聞いたこともないほど激しく絶望的なものであった。

(ILL) 今でも、いなごの害は深刻なものである。

(2) 4 種類のいなご

①「かみつくいなご」、「いなご」、「ばった」、「食い荒らすいなご」

②4 種類のいなごのことではなく、4 回にわたるいなごの災害のことであろう。

③4 回目のいなごの襲来の後には、何も残されていない。

④旧約聖書では、4 という数字は破滅の激しさを象徴的に表す数字である。

*エレ 15 : 3、エゼ 14 : 21 参照

(3) 4 種類の嘆き

①酔っ払いは、ぶどう酒が断たれたので嘆いている。

②一般民衆は、若い妻が夫を亡くした時のように泣き悲しんでいる。

③祭司たちは、喪に服している。

*穀物のささげ物と注ぎのぶどう酒が断たれた。

*ささげ物の一部は、祭司の収入になるが、それが断たれた。

④農夫たちも恥を感じ、泣きわめいている。

*収穫がなくなった。

2. 断食の布告

Joe 1:13 祭司たちよ。荒布をまとっていたみ悲しめ。／祭壇に仕える者たちよ。泣きわめけ。／神に仕える者たちよ。宮に行き、／荒布をまとって夜を過ごせ。／穀物のささげ物も注ぎのぶどう酒も／あなたがたの神の宮から退けられたからだ。

(1) ヨエルは祭司たちに、断食の布告と、きよめの集会の開催を呼びかけた。

①荒布をまとったまま寝るのは、事態がいかに深刻であることを表している。

(2) いなごの大災害は、ユダの民にとっては神の前に悔い改める機会となった。

①ヨエルは、この大災害を下敷きにして、預言を語る。

②それは、将来起ころうとしてより悲惨な裁き(大患難時代)の預言である。

3. 【主】の日が来るという警告

Joe 1:15 ああ、その日よ。【主】の日は近い。／全能者からの破壊のように、その日が来る。

①ヨエルは、この書で 5 回「【主】の日」という言葉を使用している。

＊ここが、その最初のものである。

②その日は、全能者からの破壊のように来る。

③【主】の日は、耐え難いほどの苦難の日(大患難時代)である。

II. 悔い改めの呼びかけ (2 : 1～17)

1. 【主】の日の描写

Joe 2:1 シオンで角笛を吹き鳴らし、／わたしの聖なる山でときをあげよ。／この地に住むすべての者は、わななけ。／【主】の日が来るからだ。その日は近い。

(1) 第 1 の災害はいなごの侵入であったが、次に来る災害は敵軍の侵入である。

①旧約時代には、さまざまな理由で角笛を吹き鳴らした。

②ここでは、敵軍の侵入を告げるために角笛が吹かれる(民 10 : 9 参照)。

③第 2 の侵入が、「【主】の日が来るからだ。その日は近い」と表現される。

(2) メシア的王国が地上に出現する前に、最終的な神の怒りが地上に下る。

①【主】の日は、「やみと、暗黒の日」、「雲と、暗やみの日」である。

②【主】の日が暗黒の日であることは、他の預言者たちも預言している。

＊イザ 8 : 22、60 : 2

＊アモ 5 : 18～20

＊ゼパニヤ 1 : 14～16

③地上を破壊する方法は、火と炎である。

④かつてエデンの園のように美しかった所が、荒れ果てた荒野に変貌する。

⑤侵入して来るのは、人間ではなく、悪霊どもである。

⑥彼らは、徹底的に破壊行為を遂行し、国々の民はその前でもだえ苦しむ。

2. 断食ときよめの集会

Joe 2:12 「しかし、今、——【主】の御告げ——／心を尽くし、断食と、涙と、嘆きとをもって、／わたしに立ち返れ。」

Joe 2:13 あなたがたの着物ではなく、／あなたがたの心を引き裂け。／あなたがたの神、
【主】に立ち返れ。／主は情け深く、あわれみ深く、／怒るのにおそく、恵み豊かで、／わ
ざわいを思い直してくださるからだ。

(1) 迫り来る【主】の日を前に、【主】からの呼びかけがなされる。

- ①外面の悔い改めではなく、内面の悔い改め（心を引き裂く）が必要である。
- ②「主は情け深く、あわれみ深く、怒るのにおそく、恵み豊かで、わざわいを
思い直してくださるからだ」
- ③これは、出 34 : 6 の原則の再述である。

(2) 「シオンで角笛を吹き鳴らせ」

①敵の侵入を告げるためではなく、断食ときよめの集会を召集するため。

*民 10 : 10 参照

②断食ときよめの集会を召集する理由は、迫り来る神の怒りから逃れるため。

③この集会には、老若男女の全員が招かれている。

④通常は出席を免除される新婚の男女も、ここでは例外ではない。

⑤祭司たちは、泣きながら祈りをささげなければならない。

*「選びの民であるイスラエルを滅ぼさず、あわれんでください」

*「神を知らない者たちが、神の御名をあざけることがないようにしてく
ださい」

*これは、詩篇 79 : 10 と同じ祈りである。

Ⅲ. 赦しと回復の約束 (2 : 18~27)

1. 神は、イスラエルをねたむほど愛しておられる。

Joe 2:18 【主】はご自分の地をねたむほど愛し、／ご自分の民をあわれまれた。

(1) 【主】は、イスラエルの地、特にエルサレムを愛しておられる。

①その愛は、ねたむほどのものである。

*出 34 : 14

②イスラエルの地をねたむほどに愛される神は、イスラエルの民をもあわれ
まれる。

③イスラエルの民の多くが殺されても、全滅することは決してない。

(2) ハルマゲドンの戦いへの言及

Joe 2:20 わたしは北から来るものを、／あなたがたから遠ざけ、／それを荒廃した砂漠の
地へ追いやり、／その前衛を東の海に、／その後衛を西の海に追いやる。／その悪臭が立ち
上り、／その腐ったにおいが立ち上る。／主が大いなることをしたからだ。」

- ①北からの軍勢がイスラエルの地に向かって攻めて来ると、最後の戦いであるハルマゲドンの戦いが始まる。
- ②しかし、神の力によってイスラエルは滅亡を免れる。
- ③北から攻めて来た敵の軍勢は、滅ぼされる。

(3) 神の「ねたむほどの愛」は、キリストにある私たちにも向けられている。

Jas 4:5 それとも、「神は、私たちのうちに住まわせた御霊を、ねたむほどに慕っておられる」という聖書のことばが、無意味だと思うのですか。

2. 勝利の喜び

(1) 3 つのものが喜ぶ。

①全地が喜ぶ。

*【主】が大いなることをされるから。

②動物界も喜ぶ。

*不毛の地である荒野に牧草が生え、豊かな食物が約束されるから。

③イスラエルの民（シオンの子ら）も、【主】にあって楽しみ喜ぶ。

(2) 以上の喜びは、すべてメシア的王国（千年王国）に関係したものである。

①メシアの再臨によって、被造世界は栄光を回復するようになる。

(3) イスラエルの民が喜ぶ理由

Joe 2:23 シオンの子らよ。／あなたがたの神、【主】にあって、楽しみ喜べ。／主は、あなたがたを義とするために、／初めの雨を賜り、大雨を降らせ、／前のように、初めの雨と後の雨とを／降らせてくださるからだ。

①イスラエルの地には、季節ごとに必要な雨が与えられる。

*秋に降るのが初めの雨、春に降るのが後の雨である。

②それらの雨によって、豊かな収穫が保障される。

③神の裁きを受けて苦しんだ年数と同じ期間、主からの祝福が注がれる。

(4) 赦しと回復の約束のクライマックス

Joe 2:27 あなたがたは、／イスラエルの真ん中にわたしがいることを知り、／わたしがあなたがたの神、【主】であり、／ほかにはないことを知る。／わたしの民は永遠に恥を見ることはない。

①イスラエルの民は、永遠に恥を見ることはない。

②私たちの神は、確かに私たちの真ん中にいてくださる。

IV. 栄光の未来の預言（2：28～3：21）

1. 聖霊の傾注

Joe 2:28 その後、わたしは、／わたしの霊をすべての人に注ぐ。／あなたがたの息子や娘は預言し、／年寄りも夢を見、若い男は幻を見る。

Joe 2:29 その日、わたしは、しもべにも、はしためにも、／わたしの霊を注ぐ。

- (1) ヨエル 2：28～32 は、ブル語聖書では 3 章を形成している。
 - ①それほど重要な箇所である。
 - ②日本語聖書の 3 章は、ヘブル語聖書では 4 章になっている。
 - ③この箇所のテーマは、将来起こる聖霊の傾注とイスラエルの民族的救い。
 - ④「その後」とは、終わりの日のこと。
- (2) 神は、「わたしの霊をすべての人に注ぐ」と言われる。
 - ①「すべての人」とは大患難時代に生きているすべてのイスラエル人のこと。
 - ②「あなたがたの息子や娘」も、イスラエル人のこと。
 - ③聖霊がすべてのイスラエルの民の上に注がれる。
 - ④彼らは、預言をしたり、夢や幻を見たりするようになる。
- (3) 聖霊が注がれることは、他の預言者たちも預言している。
 - ①エゼ 39：29、ゼカ 12：10 など
 - ②ホセア 5 章と 6 章では、聖霊の傾注は再臨の前の 3 日間に起こることが預言されている。
 - ③ロマ 11：26 の「イスラエルはみな救われる」も、同じ内容の預言である。
- (4) 聖霊傾注の前提条件とは何か。
 - ①【主】の日が来る前に、天変地異が起こる（30 節）。
 - ②暗黒が地上を支配する（31 節）。
 - ③大患難時代の中で、イスラエルの民は悔い改めに導かれる。
*「主の名を呼ぶ者はみな救われる」とはそういう意味である。
- (5) 使徒 2 章で、ペテロはヨエ 2：16～21 を引用した。
 - ①ヨエルが預言したことがすべてペンテコステの日に成就したわけではない。
 - ②ヨエルの預言は、終末時代に起こるユダヤ人の民族的救いに関するもの。
 - ③ペテロは、ペンテコステの日が起こったことと、ヨエルの預言の間に、ひとつの共通点があることに着目した。
 - ④それは、「わたしの霊を注ぐ」ということである。

- ⑤その 1 点をユダヤ人たちに示すために、ペテロはヨエルの預言を引用した。
- ⑥ラビたちの習慣では、全部が成就していなくても、ある 1 点で共通性があれば、それを引用することは許されることであった。

2. 千年王国設立の前に起こること

(1) 異邦人の裁き

- ①大患難時代の終了と千年王国の設立の間に、この裁きが行なわれる。
- ②すべての国民が、ヨシャパテの谷に集められる。
- ③裁きの基準は、大患難時代の間にイスラエルの民をどのように扱ったかということである。
- ④羊と山羊に区別される。

3. メシア的王国 (千年王国)

(1) 2 つの水の流れ

Joe 3:18 その日、山々には甘いぶどう酒がしたり、／丘々には乳が流れ、／ユダのすべての谷川には水が流れ、／【主】の宮から泉がわきいで、／シティムの溪流を潤す。

- ①ユダのすべての谷川には水の流れがある。
 - * 雨季にだけ水が流れるワジではなく、常に水のある川である。
 - * 山々にはぶどうが豊かに実り、丘々は豊かな乳産物を産出する。
 - ②もうひとつの水の流れは、神殿の敷居の下から流れ出る泉である。
 - * 神殿から東に流れ出し、シティムの溪流（ヨルダン溪谷）を潤す。
 - * 死海の北西岸から塩水の中に流れ込み、そこを最高の漁場に変える。
- ・エゼ 47 : 1～12 参照

(2) 「羊の異邦人」は、それぞれの民に割り当てられた地に住むようになる。

- ①教会時代の聖徒たちは、メシアとともに異邦人諸国を統治する特権に与る。
- ②パウロはローマのクリスチャンたちにこう書き送っている。

Rom 8:17 もし子どもであるなら、相続人でもあります。私たちがキリストと、栄光とともに受けるために苦難をともにしているなら、私たちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人でもあります。

60 分でわかる旧約聖書 (30) 「アモス書」

1. はじめに

(1) アモス書の位置づけ

①大預言書 (the Major Prophets)

*イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書

②小預言書 (the Minor Prophets)

*ホセア書からマラキ書までの 12 書。

③アモス書は、捕囚期前預言書 (12) のひとつである。

(2) アモス書の著者

①アモスとは、「重荷を負う者」という意味である。

*この名は、旧約聖書では彼だけしかいない。

②家族的背景は不明である。

③出身はテコア (ベツレヘム南東にあるユダの町) である。

④彼は、職業的な預言者ではない。

*エリヤやエリシャが建てた預言者の学校で学んだわけではない。

⑤彼の職業は、羊飼いであり、いちじく桑ぐわを栽培する農夫であった。

⑥彼が預言者として立ったのは、【主】からの啓示があったからである。

(3) 時代背景

①彼が預言者として活動したのは、ユダの王ウジヤ、イスラエルの王ヤロブアム 2 世の時代である。

②物質的に大いに繁栄した時代であるが、偶像礼拝が蔓延した時代でもある。

③彼が幻を見たのは、地震が起こる 2 年前と書かれている。

*この地震は、ゼカ 14 : 5 にも出ている。

*彼の活動した期間は、前 770～750 年頃になると思われる。

④南王国出身の彼が、北王国に対して預言を語った。

2. アウトライン

イントロダクション (1 : 1～2)

I. 諸国に下る裁き (1～2 章)

II. イスラエルに下る裁き (3～6 章)

III. 5 つの幻 (7～9 章)

アモス書の内容について学ぶ。

イントロダクション (1:1~2)

1. 1 節

Amo 1:1 テコアの牧者のひとりであったアモスのことば。これはユダの王ウジヤの時代、イスラエルの王、ヨアシュの子ヤロブアムの時代、地震の二年前に、イスラエルについて彼が見たものである。

(1) テコア

- ①ここはアモスが生まれ育った町である。
- ②エルサレムから南に約 10 キロ下ると、有名な町ベツレヘムがある。
- ③ベツレヘムから南東に約 10 キロ行くと、無名の町テコアがある。
- ④そこは、死海を見下ろす荒野の中の小さな町である。
- ⑤アモスは、そこからベテルに行って預言を語る。
 - *ベテルは、北王国における宗教の中心都市である。
 - *彼は、「都に上ってきた田舎説教者」である。

(2) 「牧者」

- ①通常は、「ロアー」である。
- ②ここでは、「ノケッド」となっている。
- ③2 列 3:4

2Ki 3:4 モアブの王メシャは羊を飼っており、子羊十万頭と、雄羊十万頭分の羊毛とをイスラエルの王にみつぎものとして納めていた。

- *モアブの王メシャは、「ノケッド」である。
- *羊を繁殖させる職業。ブリーダー。
- ④アモスは、ブリーダーであり、他の牧童たちを管理する立場にあった。

(3) 「ユダの王ウジヤの時代、イスラエルの王、ヨアシュの子ヤロブアムの時代」

- ①この時代は、物質的には大いに繁栄した時代である。
- ②ウジヤもヤロブアム 2 世も有能な王で、それぞれの国に繁栄をもたらした。
 - *アラムがアッシリヤによって打たれた。
 - *そして、アッシリヤはまだ大国になっていない。
 - *ユダとイスラエルは、三大交易路を支配し、そこから巨大な収入を得た。
- ③当時の領土は、南北朝合わせると、ダビデ・ソロモン時代に匹敵するほどの広さになった。
- ④この時代は、偶像礼拝が蔓延した時代でもあった。

(4) 「イスラエルについて彼が見たものである」

- ①アモスはイスラエルに行き、ベテルで裁きの預言を語った。
- ②ベテルは、ダンとともに、金の子牛が設置された「偶像礼拝の町」であった。

2. 2 節

Amo 1:2 彼は言った。／「【主】はシオンから叫び、／エルサレムから声を出される。／羊飼いの牧場はかわき、／カルメルの頂は枯れる。」

(1) 「主はシオンから叫び、エルサレムから声を出される」

- ①これは、ヨエル 3：16 からの引用である。
- ②ヨエルの箇所では、【主】は異邦人に対して叫んでおられた。
- ③ここでは、【主】はイスラエルの民に向かって叫んでおられる。

(2) 「羊飼いの牧場はかわき、カルメルの頂は枯れる」

- ①これは、【主】の正しい裁きがいかに恐ろしいものであるかを教えている。
- ②イスラエルの地の中で、常に泉が湧いている場所は、カルメルの頂である。
- ③カルメルの頂が枯れるのなら、それ以外の場所は言うまでもない。
- ④表面的な繁栄の時代にあって、アモスは霊的破産を見抜くことができた。
- ⑤今の時代は、シオンから叫ぶ【主】の御声を届ける人物が必要な時代である。

I. 諸国に下る裁き (1～2 章)

1. 「〇〇が犯した三つのそむきの罪、四つのそむきの罪のために」という表現

- (1) これは、罪の満ちるさまを描写したものである。
 - ①「三つのそむきの罪」で「不義の杯」は満ちる。
 - ②「四つのそむきの罪」でその杯は溢れ出る。
 - ③満ち溢れる罪のゆえに、神は裁きを下される。
 - ④異邦人諸国は、イスラエルに対して行った罪のゆえに、裁かれる。
 - ⑤イスラエル自身は、モーセの律法に対する違反のゆえに裁かれる。

2. 裁かれる諸国

(1) ダマスコ (シリヤ)、ガザ (ペリシテ)、ツロ (フェニキア) の 3 国 (イスラエルとは血のつながりのない民)

- ①ダマスコ (シリヤ) の罪は、ユダヤ人に対する残忍性である。
- ②ガザ (ペリシテ) の罪は、ユダヤ人を奴隷に売ったことである。
- ③ツロ (フェニキア) の罪は、ユダヤ人との契約を破ったことである。

(2) エドム、アモン、モアブの 3 国 (イスラエルと親戚関係に当たる民)

①エドムの罪は、兄弟に対する復讐心である。

②アモンの罪は、暴力的な犯罪行為である。

③モアブの罪は、不義である。

(3) ユダ (イスラエルと兄弟関係にある民)

①ユダの罪は、律法の軽視である。

(4) イスラエル自身

①敵が攻めて来る時、イスラエルの軍隊は無力となって崩壊する。

II. イスラエルに下る裁き (3～6 章)

1. イスラエルの 3 つの罪

(1) イスラエルは地上の民族の中で、特殊な地位を与えられた。

①【主】によってエジプトから連れ出された民

②【主】は、イスラエルの民と契約関係に入られた。

③特権を与えられた者には、多くの責任が伴う。

④その特権にふさわしい歩みをしていないので、裁かれる。

⑤その裁きは、一般の諸国に対するものよりもさらに厳しいものとなる。

(2) 預言者に耳を傾けない。

①預言者が語る (結果) のは、神が語られた (原因) からである。

②神が裁きを下されるのは、イスラエルの民が罪を犯したからである。

(3) イスラエルの民は、サマリヤにある宮殿で「暴虐と冒瀆を重ねて」いた。

2. もし悔い改めないなら、滅亡と捕囚が待っている。

(1) 合計 5 つの裁きの預言

①「このことばを聞け」で始まる裁きの預言が 3 つ続く (3 : 1、4 : 1、5 : 1)。

②「ああ」で始まる裁きの預言が 2 つ続く (5 : 18、6 : 1)。

III. 5 つの幻 (7～9 章)

1. アモスが見た最初の 3 つの幻

(1) 「いなご」の害の幻

①いなごの大群が、地の青草を食べつくそうとしている。

- ②これは、アッシリヤ軍の侵略を象徴するものである。
- ③アモスの執りなしによって、これは回避された。

(2) 燃える火の幻

- ①激しい火が燃え広がり、水源を枯渇させ、作物を枯れさせようとしている。
- ②イスラエルにとっては存亡の危機である。
- ③燃える火は、アッシリヤの侵略を象徴している。
- ④アモスの執りなしによって、これも回避された。

(3) 重りなわの幻

- ①【主】が重りなわを持ち、サマリヤの城壁の上に立っておられる。
- ②「重りなわ」とは、城壁が垂直に立っているかどうかを調べる大工道具。
- ③イスラエルの民の霊的状态は曲がっている（傾むいている）。
- ④もはや、とりなしは無効である。民の罪は引き返せない領域にまで進んだ。

2. 神の裁きが不可避である理由が説明される。

(1) ベテルの祭司アマツヤの登場

- ①アモスは、【主】のことばを伝える場所として、ベテルを選んでいた。
 - *最も有名な聖所があり、王自身も祭りの期間はそこを訪れていた。
- ②アマツヤは、ベテルの祭司であった（おそらく金の子牛に仕える祭司）。
- ③彼は、ヤロブアム 2 世に使者を遣わし、一連の出来事の報告を行なった。
- ④事実と嘘が混在した報告
 - *アモスが謀反を企てているというのは、嘘である。
 - *イスラエルが彼の言葉を受け入れることができないというのは、本当。
 - *ヤロブアムが剣で死ぬというのは嘘である。
 - *アモスは、ヤロブアムの家（王朝）の崩壊を預言していただけである
 - *イスラエルはその国から必ず捕らえられて行くというのは、本当。

(2) アモスを糾弾する言葉

- ①「先見者よ。ユダの地へ逃げて行け。その地でパンを食べ、その地で預言せよ」
- ②アマツヤは、アモスが【主】の預言者であることを認めなかった。
- ③また、アモスが金のためにだけ預言していると判断した。
- ④「ベテルでは二度と預言するな。ここは王の聖所、王宮のある所だから」

(3) アモスの反論

- ①「私は預言者ではなかった。預言者の仲間でもなかった」
 - * 預言者の息子でもなく、専門教育を受けたわけでもない。
- ②「私は牧者であり、いちじく桑の木を栽培していた」
 - * アモスは、農夫でもあった。
 - * 彼は、金に困ってはいなかった。
- ③その職業に従事していた時に、【主】は彼を召し、預言者として立てた。
 - * 「行って、わたしの民イスラエルに預言せよ」という【主】の召し
- ④アマツヤへの預言（これが成就したとき、誰が真の預言者か明らかになる）
 - * 彼の妻は、町で遊女となる（敵兵にもてあそばれる）。
 - * 彼の子どもたちは、戦争で殺される。
 - * 彼の土地は異邦人の侵入者の手で分割される。
 - * 彼自身もまた捕虜となり、異国で殺される。
 - * イスラエルの民は、捕囚となって、異国に引かれて行く。

3. アモスが見た最後の 2 つの幻

- (1) 一かごの夏のくだもの幻
 - ①イスラエルの上に裁きの時が近づいていることが強調されている。
- (2) 祭壇のかたわらに立つ【主】の幻
 - ①この祭壇は、ベテルの祭壇である。
 - ②この幻は、裁きがイスラエルの民に徹底的に下ることを預言したもの。

4. イスラエルの回復

- (1) 最後の 5 節だけは、イスラエルの希望についての預言である。
 - ①アモス書は、希望のメッセージで終わる
- (2) ダビデの家（王朝）の復興を預言している。
 - ①南北の両方を含んだ統一王国の復興
 - ②「ダビデの倒れている仮庵」
 - * ダビデの家が崩壊し、みすばらしい掘っ立て小屋のようにになっている。
 - * その仮庵が、立派な建物に建て直される。
 - ③使徒 15 : 16 では、イエスの弟のヤコブが、この聖句を引用している。
 - * 異邦人は、割礼を受けなくても、信仰のみによって救われる。
 - * 「ダビデの家が復興する前提として、異邦人の救いがあるのだから、異邦人信者を排除すべきではない」

(3) 9 : 13

Amo 9:13 見よ。その日が来る。／——【主】の御告げ——／その日には、耕す者が刈る者に近寄り、／ぶどうを踏む者が種蒔く者に近寄る。／山々は甘いぶどう酒をしたたらせ、／すべての丘もこれを流す。

- ①この節は、自然界の回復を預言している。
- ②「ぶどうを楽しむこと」は、平和と繁栄の象徴である。

(4) 9 : 14

Amo 9:14 わたしは、／わたしの民イスラエルの繁栄を元どおりにする。／彼らは荒れた町々を建て直して住み、／ぶどう畑を作って、そのぶどう酒を飲み、／果樹園を作って、その実を食べる。

- ①この節は、イスラエルが住む土地の回復を預言している。
- ②イスラエルの民は、約束の地に帰還し、荒れた町々を再建してそこに住むようになる。
- ③ぶどう畑を作って、そのぶどう酒を飲み、果樹園を作って、その実を食べるようになる。これもまた、繁栄と平和を描写した言葉である。

(5) イスラエルは、1948 年に国を再建した。

- ①しかし、この復興はまだ永遠のものにはなっていない。
- ②預言的なシナリオによれば、これから携挙、大患難時代と続く。
- ③大患難時代は 7 年続くが、その中間の時点で、イスラエルは再び約束の地から引き抜かれる（マタ 24 : 15～16、黙 12 : 6～17 参照）。
- ④イスラエルが永遠に約束の地に植えられるのは、大患難時代の最後に起こるメシアの再臨以降のことである。
- ⑤その時、神がアブラハムに約束したことがすべて成就する。
- ⑥アモスは、広大な世界観を持った預言者であった。
- ⑦神の計画の全貌を語りつくしたパウロは、最後にこう叫んでいる。

Rom 11:33 ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。